

産業別就業人口比にもとづくわが国の都市の機能類型区分

水田 昭夫*

Some Classifications According to The Types of City Functions in Japan
Based on The Percentage of Working Population in Each Industries

Akio MIZUTA

要 旨

現在、日本には東京特別区部の他に663の市があるが、この数は最近10年来目立った増加をみとらず、市町村の合併もごく少数に限られて行政区画の安定状態にあるため、時系列的な小地域単位での比較地理的調査にはまことに都合がよい時期を迎えている。そのこともあり、また、全国多数に上る都市の間には、交通の利便化と情報の一元化などの影響によって自ら序列関係が生じ、国内を一本化するネット・ワーク体系が確立しつつあるものの、都市相互間にはなお機能上の差異が大きいため、各都市の機能的特性（個性）を統計を使用して明確にすることが必要と考えた。手法は国勢調査報告に基づく算定を行ない、併せて全都市の機能類型化を試み、都市の基本的機能である生産、交易、消費のバランスによって全都市を35のタイプに区分した。さらに、16種の産業別特化都市の地域分布状況について、国土全体に占める圏域的な考察を加えた。調査の結果は4種の表と12枚の図にまとめてある。

I. 特化機能とその類型区分

都市の保有する機能は、産業、交通、経済、文化、観光、行政、軍事などに関し、各都市圏域の中心、または副中心として作用するものであるが、個々の都市についてみても、一般にそれらの機能は単一的ではなく総合的に互いに重なり合って地域に対し作用しているといえよう。しかし、総合的とはいってもすべての機能を平均的に周辺の一定圏域に及ぼす都市はむしろ稀であり、大半の都市はこれらのうち何らかの特定な機能に特化し、その支配圏域も機能によって広狭がみられるのが現実である。都市地理学において、都市の機能的類型区分は実証的研究面において重要な課題であり、また、各都市の個性を探るといふ非常に興味深いテーマでもある。

都市の機能的類型区分は、都市の機能的特性（個性）を明確化し、その総合的特性の類似するもの毎に分類整理を行なうもので、その結果に基づき地理的分布の特徴を探り、また、都市

規模との係わりをも考察するが、とくに機能の総合性・分化性との係わりにおいて、都市規模との関連や機能別都市の地理的分布の実態を明らかにするものである。今回は行なうことが出来なかったが、機能的特性の経年変化も考察の対象となろう。

都市の機能的分類には、都市規模、特定施設の所在、国勢調査の産業別人口、事業所統計調査、生産額などによるいくつかの方法が考えられるが、ここでは国勢調査の産業大分類別就業人口調査をもとに、各市の就業人口構成比を産業別に算出し、さらにそれぞれをグラフ化し分布状況を把握した上で、全国市部平均との対比を行なって各産業別の特化限界率の値を決定した。ただ、国勢調査による場合の避けられない問題点は、調査が常住地人口によるものであるため、従業地人口によるものとは大きなずれをもつことが多い点、また、一般に合併によって市域が広大化しているため、非都市的な産業人口が加算される点、さらに各産業活動の規模は就業人口のみでは必ずしも的確に把握されない点などである。

ところで、都市のもつ基本的な機能特性は、生産、交易、消費の3つの機能にあるといえる。これらを実際の産業大分類にあてはめてみると、生産とは非都市的な第1次産業に属する農業、林業、漁業と中間的な第2次産業に属する鉱業、建設業、製造業、また、交易には都市的な第3次産業のうち、電気・ガス・熱供給・水道業、運輸・通信業、卸売・小売業と飲食店、金融・保険業、不動産業が含まれ、消費には同じく都市的な第3次産業のうちのサービス業、公務（他のいずれにも含まれないもの）が含まれる。他に、分類不能の産業があるが、これは何れにも含め得ない。そして、都市の機能類型に関しては、まずこれら第1次生産、第2次生産、交易、消費の4つの基本的機能への就業者率のバランスが区分上の基礎となる。

次に、特化する産業と特化都市機能との関係については、次の様に考えられる。（括弧内は都市機能） 農業（田園）、林業（林業）、漁業（水産）、鉱業（鉱山）、建設業（建設業）、製造業（工業）、電気・ガス・熱供給・水道業（公益事業）、運輸・通信業（交通）、卸売・小売業、飲食店（商業）、金融・保険業（金融）、不動産業（不動産業）、サービス業（一般サービス業、宗教、文教、観光・保養、基地）、公務（行政、軍事）、特化産業を欠くもの（標準、準標準）で、上記括弧内の合計20種類の都市類型に区分される。

II. 産業別就業人口の推移

表1-1、1-2、1-3はそれぞれ平成2年、昭和60年、昭和55年の国勢調査による産業大分類別15才以上就業者数、同百分比、対前回増減率を全国および市部・郡部別にまとめたものである。

この表から判るおもなことは、全国において第1次産業、第2次産業、第3次産業それぞれの割合は、平成2年の第1次産業は7%に過ぎず、回を逐って加速度的な減少をみたこと、第2次産業は毎回約33%とほぼ横這い傾向であること、平成2年の第3次産業率は59%で調査毎に増大を続けていることである。産業別にみると、数量的には製造業、サービス業、卸売・小売業と飲食店の3種が大きいのが目立つ。他に増加率の高い産業は、平成2年、折しも異常な土地ブームの絶頂期を迎えた不動産業や分類不能の産業を筆頭に、金融・保険業があり、一方、減少率の高い産業は鉱業を筆頭に、林・農・漁業の第1次産業である。建設業は昭和55～60年は減少したが、昭和60～平成2年では一転して高い伸びを示した。

次に、市部と郡部とを対比しながら各産業の就業者数、同百分比、増減率などをみると、就業者数は各年次共、第1次産業だけは市部より郡部の方が多い。百分比では、平成2年は第1次産業だけでなく第2次産業でも郡部で率が高い。また、第3次産業でも公務だけは郡部での

占有率が市部を上まわっている。昭和55年では製造業や公務は郡部より市部での百分比の方が高かった。第1次産業の低落傾向に伴ない、相対的に郡部での第2次産業化が盛んになってきていることの現れであろう。平成2年迄の5年間の就業者増加率では、市部でより高いものに建設業、運輸・通信業、金融・保険業、サービス業、分類不能の産業があり、製造業、不動産業、公務は郡部がより高い。

表1-1 産業大分類別15才以上就業者数（平成2年国勢調査）

種別 産業大分類別	全 国			市 部			郡 部		
	就業者数 人	就業者数 百分比 %	対S.60年 増減率 %	就業者数 人	就業者数 百分比 %	対S.60年 増減率 %	就業者数 人	就業者数 百分比 %	対S.60年 増減率 %
総 数	61,681,642	100.0	5.7	47,498,801	100.0	7.3	14,182,841	100.0	0.6
農 業	3,918,650	6.4	△19.2	1,627,110	3.4	△17.9	2,291,540	16.2	△20.1
林 業	107,500	0.2	△23.1	32,738	0.1	△21.5	74,762	0.5	△23.8
漁 業	365,131	0.6	△13.3	151,102	0.3	△15.9	214,029	1.5	△11.4
鉱 業	63,381	0.1	△33.5	35,723	0.1	△35.2	27,658	0.2	△31.1
建 設 業	5,842,027	9.5	10.9	4,350,112	9.2	12.6	1,491,915	10.5	6.3
製 造 業	14,642,678	23.7	4.8	11,125,099	23.4	4.2	3,517,579	24.8	6.8
電気・ガス・熱供給・水道業	333,614	0.5	△1.0	266,863	0.6	△0.9	66,751	0.5	△1.3
運 輸 ・ 通 信 業	3,674,717	6.0	4.7	2,960,491	6.2	5.3	714,226	5.0	2.1
卸売・小売業、飲食店	13,801,675	22.4	3.1	11,535,562	24.3	3.1	2,266,113	16.0	3.3
金 融 ・ 保 険 業	1,969,207	3.2	13.9	1,716,004	3.6	14.3	253,203	1.8	11.2
不 動 産 業	692,591	1.1	44.4	637,683	1.3	43.6	54,908	0.4	53.5
サ ー ビ ス 業	13,886,738	22.5	16.2	11,199,686	23.6	17.4	2,687,052	18.9	11.4
公 務 (他に分類されないもの)	2,062,814	3.3	0.3	1,556,427	3.3	△0.0	506,387	3.6	1.3
分類不能の産業	320,919	0.5	92.7	304,201	0.6	99.4	16,718	0.1	19.8
(再 掲)									
第 1 次 産 業	4,391,281	7.1	△18.9	1,810,950	3.8	△17.8	2,580,331	18.2	△19.6
第 2 次 産 業	20,548,086	33.3	6.3	15,510,934	32.7	6.3	5,037,152	35.5	6.3
第 3 次 産 業	36,421,355	59.0	8.9	29,872,716	62.9	9.4	6,548,640	46.2	6.7

表1-2 産業大分類別15才以上就業者数(昭和60年国勢調査)

産業大分類別	種別	全 国			市 部			郡 部		
		就業者数 人	就業者数 百分比 %	対S.55年 増減率 %	就業者数 人	就業者数 百分比 %	対S.55年 増減率 %	就業者数 人	就業者数 百分比 %	対S.55年 増減率 %
総	数	58,357,232	100.0	4.6	44,262,133	100.0	5.9	14,095,099	100.0	0.6
農	業	4,851,035	8.3	△11.5	1,982,667	4.5	△11.4	2,868,368	20.4	△11.6
林	業	139,662	0.2	△15.5	41,702	0.1	△11.8	98,160	0.7	△17.0
漁	業	421,296	0.7	△ 8.6	179,678	0.4	△10.1	241,618	1.7	△ 7.5
鉱	業	95,316	0.2	△11.8	55,154	0.1	△12.2	40,162	0.3	△11.1
建	設 業	5,266,295	9.0	△ 2.2	3,863,062	8.7	△ 0.5	1,403,233	10.0	△ 6.4
製	造 業	13,972,604	23.9	5.5	10,679,355	24.1	4.3	3,293,249	23.4	9.7
電気・ガス・熱供給・水道業		336,841	0.6	△ 3.4	269,191	0.6	△ 3.3	67,650	0.5	△ 3.5
運	輸・通 信 業	3,510,034	6.0	0.2	2,810,678	6.4	0.8	699,356	5.0	△ 2.4
卸	売・小売業、飲食店	13,382,405	22.9	5.1	11,188,223	25.3	5.7	2,194,182	15.6	2.1
金	融・保 険 業	1,729,426	3.0	9.7	1,501,635	3.4	10.1	227,791	1.6	7.2
不	動 産 業	479,753	0.8	12.4	443,962	1.0	12.6	35,771	0.3	7.1
サ	ー ビ ス 業	11,949,386	20.5	16.1	9,537,724	21.5	17.3	2,411,662	17.1	11.7
公	務 (他に分類されないもの)	2,056,461	3.5	1.5	1,556,518	3.5	1.6	499,943	3.5	1.2
	分類不能の産業	166,518	0.3	170.6	152,564	0.3	185.8	13,954	0.1	71.2
	(再 掲)									
第 1 次 産 業		5,412,193	9.3	△11.4	2,204,047	5.0	△11.3	3,208,146	22.8	△11.5
第 2 次 産 業		19,334,215	33.1	3.2	14,597,571	33.0	2.9	4,736,644	33.6	4.2
第 3 次 産 業		33,444,306	57.3	8.2	27,307,951	61.7	8.0	6,136,355	43.5	5.2

表1-3 産業大分類別15才以上就業者数(昭和55年国勢調査)

産業大分類別	種別	全 国		市 部		郡 部	
		就業者数 人	就業者数 百分比 %	就業者数 人	就業者数 百分比 %	就業者数 人	就業者数 百分比 %
総	数	55,811,309	100.0	41,795,920	100.0	14,015,389	100.0
農	業	5,484,339	9.8	2,238,050	5.4	3,246,289	23.2
林	業	185,498	0.3	47,263	0.1	118,235	0.8
漁	業	461,150	0.8	199,938	0.5	261,212	1.9
鉱	業	108,020	0.2	62,836	0.2	45,184	0.3
建	設 業	5,333,271	9.6	3,884,319	9.3	1,498,952	10.7
製	造 業	13,246,135	23.7	10,243,783	24.5	3,002,352	21.4
電気・ガス・熱供給・水道業		346,607	0.6	278,514	0.7	70,093	0.5
運	輸・通 信 業	3,504,251	6.3	2,787,507	6.7	718,744	5.1
卸	売・小売業、飲食店	12,731,078	22.8	10,582,830	25.3	2,148,248	15.3
金	融・保 険 業	1,576,530	2.8	1,364,031	3.3	212,499	1.5
不	動 産 業	426,905	0.8	393,500	0.9	33,405	0.2
サ	ー ビ ス 業	10,286,155	18.4	8,128,198	19.4	2,159,957	15.4
公	務 (他に分類されないもの)	2,025,831	3.6	1,531,764	3.7	494,067	3.5
	分類不能の産業	61,539	0.1	53,387	0.1	8,152	0.1
	(再 掲)						
第 1 次 産 業		6,110,987	10.9	2,845,251	5.9	3,265,736	25.9
第 2 次 産 業		18,737,426	33.6	14,190,938	34.0	4,546,488	32.4
第 3 次 産 業		30,901,357	55.4	25,066,344	60.0	5,835,013	41.6

Ⅲ. 機能別就業人口構成比

表2は平成2年度国勢調査の結果による全国各市の基本的機能別就業人口構成比の一覧である。この表で各市横欄の計が100%とならないのは、分類不能の産業を除くため、立川、京都ではこの産業が2%を超える。表の配列は、各都市のもつ4つの基本的機能のうち全国平均に較べいずれに特化するかによって7つの類型に区分し、それぞれ北から南への順に構成の各百分率を記してある。特化とみなす限界値は、分布状況から第1次生産が22%（平均3.8%）、第2次生産が45%（平均32.7%）、交易が40%（平均36.0%）、消費が30%（平均26.9%）と定めた。また、第1次生産は本来都市的産業ではないが、市域単位での都市機能として分析するためこれを含め、第2次生産も近年むしろ非都市的産業に変わったが、これも含めることにした。

各類型毎に該当都市の地域分布や都市規模などの特徴をみると、タイプ1の第1次生産・消費型は深川1市に過ぎず、むしろ例外的である。

タイプ2の交易・消費型は31市で、分布は四国・九州・沖縄の西南日本に多く、東北・北海道の東北日本がこれに次ぎ、関東から中国地方にかけての中央日本には極めて少ない。両極拠点型タイプで、南北両端部の県庁所在都市が中心といえ、札幌、仙台、福岡の大都市を含む。

タイプ3の第1次生産特化型は39市で、分布は四国南部、九州中南部、東北北東部に多く、いずれも小都市であり、両極非都市型タイプである。

タイプ4の第2次産業特化型は79市あり、いずれも中小規模の都市で、分布は東海を中心として東は関東から西は山陽東部の広域に及んでおり、中央日本集中型といえる。

タイプ5の交易特化型は26市と少ないが、分布は北海道から北部九州へと広域に亘り、東京特別区部、名古屋、大阪の巨大都市をはじめ、神戸、広島、北九州の大都市、新潟、金沢、高松の地方中核都市を含む。中央拠点型タイプといえよう。

タイプ6の消費特化型は94市と数が多く、分布は全国的であるが、なかでも比較的特定の地域に集中する傾向を示す。集中地域は北から道央、首都圏（とくに東京西郊）、近畿、九州北西部、南西諸島の5地域で、大都市圏近郊型と呼んでもよからう。規模の大きいものは千葉のみである。

タイプ7の非特定型は386市と市の数の60%に近い多数を占めている。その分布は全国的であるが、よく注意してみると北海道や東北北部、四国南部や九州中南部、沖縄（全く欠ける）のわが国南北両端部、それに東京から名古屋に至る東海ベルト地帯などは分布が薄いことが判る。そこでこのタイプは核心部と縁辺部とを共に除く中間広域型であるといえる。大都市では横浜、川崎と京都がこれに含まれる。

表2について、4基本機能の各々についての特化率の特に高いものを拾ってみると、第1次生産では、江刺の37.0%、尾花沢の36.3%、西之表の36.2%の3市があり、これらは東北と西南日本の典型的な田園都市である。第2次生産については、高浜、湖西の各61.2%、美濃58.9%、豊田58.5%、刈谷58.1%、燕57.4%が特に高率で、いずれも輸送条件の良い東海と北陸の工業特化都市である。

交易については、福岡の46.9%、那覇の46.2%、芦屋の46.0%が際立って高率で、西南日本での商業中核都市や商都大阪の衛星住宅都市での高い特化率を示している。消費については、熱海の46.9%、千歳の45.1%、伊東41.5%、名寄41.3%、恵庭、むつの各41.0%、つくば40.7%などが高率で、これらのうち千歳、名寄、恵庭、むつは公務（軍事）、つくばはサービス業（文教）、熱海、伊東はサービス業（観光・保養）の特化都市である。

表2. 全国都市別機能別就業人口構成比(平成2年国勢調査;分類不能の産業を除く)

都市名	1次 生産	2次 生産	交易	消費	都市名	1次 生産	2次 生産	交易	消費	都市名	1次 生産	2次 生産	交易	消費	都市名	1次 生産	2次 生産	交易	消費
全国(市部)	3.8	32.7	36.0	26.5	浦 添	1.0	21.0	42.2	35.5	杵 築	31.4	25.6	22.8	20.0	氷 見	9.1	46.2	24.1	20.6
1. (第1次生産・消費特化型)					沖 縄	2.4	21.0	40.8	35.6	小 林	26.0	24.4	24.9	24.7	水 黒	7.9	49.9	21.1	21.0
深 川	25.3	19.5	24.7	30.4	3. (第1次生産特化型)					小 串	31.6	23.7	19.6	25.2	小 矢	9.2	45.5	24.5	21.0
2. (交易・消費特化型)					士 別	24.8	25.0	24.2	25.9	西 都	32.3	26.0	21.1	20.7	武 生	5.8	47.9	26.8	19.4
札 幌	0.7	21.1	43.9	33.4	根 室	25.6	23.4	26.7	24.2	え び の	34.3	23.6	17.6	24.5	勝 山	11.2	46.3	21.5	20.8
函 館	2.8	21.4	42.4	33.0	富 良 野	29.1	15.2	25.7	29.8	阿 久 根	24.0	33.8	22.3	19.9	鱒 江	3.1	55.9	22.7	18.0
旭 川	4.3	24.2	40.2	31.1	黒 石	24.4	28.3	25.2	22.1	大 口	26.1	28.9	20.7	24.2	富 士 吉 田	1.5	47.9	28.6	22.1
青 森	4.6	18.6	44.0	32.6	五 所 川 原	25.5	21.4	28.2	25.0	西 之 表	36.2	15.6	22.8	25.6	都 留	2.3	48.9	27.1	21.7
盛 岡	3.2	16.5	41.9	37.2	遠 野	33.0	28.6	19.3	19.0	垂 水	32.4	23.1	23.9	20.6	大 月	1.9	45.8	28.6	23.8
仙 台	1.8	20.5	44.9	32.1	陸 前 高 田	25.0	34.9	20.4	19.6	4. (第2次生産特化型)					岡 谷	2.5	55.4	23.7	18.3
多 賀 城	2.2	26.3	40.2	31.3	江 刺	37.0	30.0	16.5	16.6	歌 志 内	1.0	45.2	24.2	29.5	駒 ヶ 根	9.1	48.3	22.6	20.0
秋 田	3.5	21.0	41.9	33.2	二 戸	23.5	30.7	24.5	21.3	日 立	2.0	46.9	25.0	25.9	関	3.6	52.5	24.9	18.9
水 戸	4.4	21.6	41.8	31.8	村 沢	23.8	40.1	18.3	17.7	結 城	14.3	45.1	25.8	14.8	中 津 川	6.9	46.5	27.0	19.5
成 田	5.6	18.7	40.9	34.3	尾 花 沢	36.3	33.4	14.7	15.6	高 萩	7.6	45.9	24.4	22.2	美 濃	3.2	58.9	19.9	18.1
習 志 野	1.0	26.9	41.3	30.5	八 日 市 場	24.1	26.5	28.5	20.9	北 茨 城	9.3	49.0	21.8	19.8	羽 島	4.1	50.9	26.3	18.7
武 蔵 野	0.3	21.7	40.8	35.5	両 津	28.1	20.5	27.3	24.2	足 利	3.3	50.2	27.2	19.2	土 岐	0.5	52.0	30.0	17.6
箕 面	1.1	24.9	42.0	30.2	珠 洲	25.6	34.3	18.6	21.4	佐 野	4.9	46.9	29.3	18.8	可 児	2.9	48.8	27.0	21.2
芦 屋	0.1	21.4	46.0	31.3	塩 山	22.0	30.0	26.0	21.9	真 岡	13.0	49.4	20.2	17.4	富 士 宮	5.6	45.8	28.0	20.8
新 宮	2.8	23.4	43.2	30.4	山 梨	23.2	28.8	25.5	22.4	桐 生	1.1	50.9	28.0	20.0	島 田	8.9	45.7	26.4	18.8
高 山	4.6	23.8	40.9	30.6	中 野	30.3	29.2	21.7	18.7	伊 勢 崎	4.5	48.1	27.4	19.8	富 士	3.6	49.4	29.0	18.1
高 知	3.1	20.4	41.8	33.9	飯 山	31.4	26.7	20.4	21.5	太 田	4.8	50.5	26.6	18.0	磐 土	6.8	47.4	26.9	18.7
福 岡	1.2	20.2	46.9	30.8	八 幡 浜	22.6	23.0	31.3	23.0	行 田	5.4	45.1	30.6	18.7	袋 井	10.7	45.2	25.4	18.6
筑 紫 野	3.0	22.0	40.4	33.5	室 戸	25.2	22.5	27.8	24.6	羽 生	7.6	45.2	27.9	19.2	浜 北	7.4	50.7	24.2	17.8
春 日	0.5	23.8	42.3	33.2	安 芸	29.6	17.4	26.4	26.3	八 潮	2.6	48.4	32.3	16.4	裾 野	4.3	46.9	23.1	25.8
太 宰 府	1.0	22.0	44.3	32.1	土 佐	29.1	22.0	26.5	22.3	南 足 柄	4.1	47.9	24.1	23.8	湖 西	8.2	61.2	17.0	13.7
佐 賀	5.0	20.8	40.5	33.4	須 崎	23.6	24.3	29.4	22.7	綾 瀬	1.6	46.1	26.5	25.0	岡 崎	2.5	47.5	29.2	20.7
長 崎	3.4	21.7	41.4	33.2	土 佐 清 水	22.1	21.4	27.9	28.5	小 千 谷	11.3	46.1	22.5	20.2	瀬 戸	0.6	46.3	30.9	22.0
熊 本	2.5	20.0	42.0	34.7	鹿 島	22.9	27.8	26.0	23.3	加 茂	8.2	49.3	25.3	17.3	豊 川	6.2	45.2	27.1	21.5
別 府	1.9	17.1	40.8	39.9	平 戸	31.3	20.7	22.0	26.0	十 日 町	10.1	47.8	21.8	20.4	碧 南	6.5	55.0	23.1	15.3
宮 崎	5.7	18.1	41.4	34.5	牛 深	32.4	21.5	22.0	24.0	見 附	6.6	50.7	26.8	16.0	刈 谷	2.0	58.1	23.1	16.2
鹿 児 島	1.6	19.9	44.7	33.4	菊 池	22.9	26.4	23.7	27.1	燕	5.7	57.4	24.5	12.3	豊 田	2.4	58.5	21.8	16.8
那 覇	1.0	16.0	46.2	36.0	竹 田	32.6	20.1	23.3	23.8	栃 尾	14.6	50.9	19.7	14.8	安 城	5.1	53.3	24.1	17.5
宜 野 湾	1.5	20.3	40.3	37.8	豊 後 高 田	25.8	27.2	24.6	22.4	五 泉	11.9	46.5	24.1	17.4	西 尾	7.2	51.8	22.9	17.9

都市名	1次生産 %	2次生産 %	交易消費 %	都市名	1次生産 %	2次生産 %	交易消費 %	都市名	1次生産 %	2次生産 %	交易消費 %	都市名	1次生産 %	2次生産 %	交易消費 %
浦那	5.6	46.9	26.4	東京特別区	0.2	27.8	41.2	日	3.1	31.8	32.8	光	0.9	27.3	35.9
犬山	2.6	47.6	28.2	新	3.1	24.6	42.2	所	2.1	30.0	36.2	沢	1.4	26.9	40.0
滑南	7.4	47.3	25.0	金	2.2	27.3	40.4	朝	1.3	34.3	33.8	霞	1.8	32.1	33.9
江尾	2.2	46.7	30.7	名	0.4	32.9	41.7	和	1.4	26.9	40.0	光	2.4	27.3	39.6
西尾	2.6	54.3	27.2	大	0.1	35.4	42.0	千	1.3	21.0	34.1	葉	19.8	17.3	26.9
小牧	2.3	46.5	30.0	豊	0.3	29.9	42.5	館	1.4	21.0	34.1	山	1.0	32.6	34.7
東海	4.0	48.0	29.6	池	1.5	28.2	32.9	我	2.4	27.3	39.6	孫	1.1	28.6	36.1
大府	3.9	52.1	24.9	田	0.2	27.1	42.8	鴨	19.8	17.3	26.9	川	1.2	29.5	38.5
知多	4.8	46.2	28.9	津	0.4	38.4	40.7	八	1.0	32.6	34.7	王	1.4	30.5	36.9
知立	1.9	50.2	29.0	神	1.0	27.7	41.8	立	1.1	28.6	36.1	川	1.2	29.5	38.5
高浜	2.6	61.2	22.1	西	0.5	26.0	42.8	三	0.9	27.3	35.9	鷹	1.5	27.5	38.7
鈴鹿	5.6	47.6	27.1	下	1.8	28.7	40.4	府	0.9	30.3	33.8	中	2.0	25.8	38.4
亀山	6.4	47.4	25.5	高	5.0	28.3	40.4	調	0.9	25.1	38.2	布	8.7	28.6	28.1
八日市	6.7	46.1	27.5	北	4.4	23.9	42.9	町	1.2	28.3	36.1	田	6.6	20.2	38.3
龍野	4.9	47.8	25.8	九	1.2	30.8	40.7	小	0.9	23.7	36.8	金	1.3	34.8	32.6
西脇	2.0	47.6	28.9	大	0.7	25.7	43.8	小	1.0	29.7	34.6	平	2.7	29.2	37.1
小野	3.7	48.0	25.7	6. (消 費 特 化 型)				日	0.8	31.5	33.4	野	8.8	18.6	33.9
加西	6.3	51.8	21.4	室	1.0	30.3	38.2	東	1.0	27.9	35.9	村	6.2	25.7	37.2
井原	7.4	53.5	22.6	帯	5.2	22.2	40.0	国	1.1	23.3	37.4	分	9.2	27.1	27.8
備前	3.5	49.5	28.0	夕	12.1	26.3	28.8	国	0.9	24.2	36.6	立	13.4	21.0	34.2
府中	2.2	56.1	23.6	岩	7.9	21.5	37.7	田	0.9	27.7	36.2	無	5.5	23.0	39.8
川之江	4.7	51.3	26.5	網	13.2	21.6	30.2	保	1.1	27.4	38.1	谷	2.0	27.8	36.6
大川	9.6	47.1	27.4	留	4.9	26.4	33.4	狛	1.0	25.9	36.8	江	2.4	36.2	31.0
5. (交 易 特 化 型)				利	5.1	24.2	37.0	清	2.0	27.5	34.3	瀬	3.0	33.5	30.0
小樽	2.0	26.3	43.2	名	9.2	19.0	30.5	東	1.3	28.6	35.4	久	8.3	22.5	34.9
釧路	3.0	25.6	41.8	千	4.1	22.2	28.7	多	0.3	24.9	36.0	摩	4.2	24.7	35.5
苫小牧	1.0	29.7	41.3	滝	8.3	22.2	35.8	稲	1.9	34.5	31.5	城	10.5	24.9	34.3
塩尻	2.4	30.3	43.2	登	1.4	27.9	34.9	横	1.3	30.2	33.3	須	5.0	22.9	38.6
春日	1.6	33.4	40.0	恵	6.2	25.6	27.2	鎌	0.9	28.3	37.0	賀	8.3	25.7	34.8
与野	0.5	30.3	40.6	伊	14.9	24.5	29.8	逗	0.6	27.1	38.3	子	9.3	23.5	29.3
越谷	1.7	33.2	40.7	三	11.7	24.7	23.9	七	7.8	30.4	31.4	尾	19.0	18.6	31.7
市川	1.0	27.4	42.6	心	6.5	20.5	32.0	加	4.9	34.5	25.7	賀	11.6	25.3	32.7
船橋	1.6	28.4	41.6	福	8.6	28.3	32.4	熱	1.9	16.5	34.6	海	8.6	33.5	27.5
浦安	0.2	25.1	45.3	つ	11.9	23.4	23.6	伊	3.5	19.6	35.1	東	11.5	21.2	33.4

都市名	1次 生産		2次 生産		1次 消費		2次 消費		都市名	1次 生産		2次 生産		1次 消費		2次 消費		都市名	1次 生産		2次 生産		1次 消費		2次 消費	
	%	%	%	%	%	%	%	%		%	%	%	%	%	%	%	%		%	%	%	%	%	%	%	%
市原	4.0	39.0	30.0	25.1	15.9	42.2	21.4	20.4	大垣	2.1	44.3	31.9	21.4	7.8	29.4	35.4	27.4	彦根	5.4	41.6	30.1	22.5	5.4	41.6	30.1	22.5
山	2.3	29.8	39.2	28.0	21.7	35.2	25.5	17.4	高山	12.4	33.9	30.6	23.1	12.4	33.9	30.6	23.1	長浜	4.5	44.2	29.4	21.5	4.5	44.2	29.4	21.5
八千代	2.8	30.7	39.3	26.5	12.4	33.9	30.6	23.1	多治見	3.8	45.0	27.8	23.4	0.6	41.9	35.6	21.9	近江八幡	5.9	42.4	29.4	21.9	5.9	42.4	29.4	21.9
鎌ヶ谷	2.9	35.4	36.0	25.4	6.4	33.5	32.8	27.2	瑞穂	9.2	39.7	27.5	23.7	3.8	45.0	27.8	23.4	草津	3.0	43.7	29.1	23.8	3.0	43.7	29.1	23.8
君津	6.9	37.2	30.6	25.1	4.0	32.6	36.6	26.4	恵那	6.3	43.7	26.9	23.2	9.2	39.7	27.5	23.7	守山	5.5	41.5	26.9	25.8	5.5	41.5	26.9	25.8
富貴	14.9	30.3	31.2	23.3	3.4	41.6	33.2	21.7	美濃加茂	2.7	43.6	28.9	24.7	6.3	43.7	26.9	23.2	京都	1.0	30.9	38.6	27.4	1.0	30.9	38.6	27.4
四街道	2.7	28.9	38.4	29.7	5.2	44.4	30.4	20.0	各務原	4.5	31.8	39.2	24.4	2.7	43.6	28.9	24.7	福知山	10.5	32.3	32.0	20.7	10.5	32.3	32.0	20.7
青柳	1.5	42.7	28.3	26.7	6.1	44.7	26.4	22.8	静岡	4.5	42.8	31.0	21.5	4.5	42.8	31.0	21.5	綾部	18.4	39.3	21.0	25.0	18.4	39.3	21.0	25.0
昭島	0.8	35.3	34.0	29.1	7.1	44.6	27.4	20.9	浜松	3.6	40.3	34.5	21.5	4.5	42.8	31.0	21.5	宮津	11.8	28.9	32.4	26.9	11.8	28.9	32.4	26.9
福生	0.4	34.5	35.2	28.1	11.7	42.2	22.4	23.6	沼津	3.6	40.3	34.5	21.5	3.6	40.3	34.5	21.5	岡崎	6.5	35.5	30.8	26.3	6.5	35.5	30.8	26.3
東大和	1.0	32.8	36.3	29.4	3.6	43.5	27.0	25.8	清水	5.4	38.0	34.9	21.5	5.4	38.0	34.9	21.5	陽城	1.8	38.6	32.6	26.4	1.8	38.6	32.6	26.4
武蔵村山	1.5	41.1	31.6	24.9	20.0	32.5	25.0	22.6	三島	3.7	37.7	33.2	25.3	3.7	37.7	33.2	25.3	向日	1.5	34.4	37.9	25.6	1.5	34.4	37.9	25.6
秋川	2.3	40.2	28.8	28.2	8.3	42.2	24.6	24.7	焼津	4.9	43.0	32.6	19.4	4.9	43.0	32.6	19.4	長岡京	1.2	36.4	33.5	28.5	1.2	36.4	33.5	28.5
横浜	0.7	32.4	37.6	28.6	6.1	39.2	24.7	24.8	掛川	12.5	44.0	24.1	19.2	12.5	44.0	24.1	19.2	八幡	2.6	32.9	35.0	27.8	2.6	32.9	35.0	27.8
川崎	0.6	35.1	35.1	28.6	4.1	33.3	36.5	25.6	枝川	6.5	40.8	31.7	20.8	6.5	40.8	31.7	20.8	堺	0.6	34.4	38.5	24.7	0.6	34.4	38.5	24.7
平塚	2.5	40.9	31.7	24.5	4.4	40.1	31.2	24.3	大磯	7.8	43.5	27.1	21.4	7.8	43.5	27.1	21.4	岸和田	1.8	38.4	35.8	23.7	1.8	38.4	35.8	23.7
藤沢	1.7	36.2	33.6	27.5	7.8	39.8	27.8	24.7	豊橋	8.3	39.7	31.0	20.7	8.3	39.7	31.0	20.7	泉大津	0.3	43.4	34.2	21.3	0.3	43.4	34.2	21.3
小田原	3.8	37.2	33.8	25.1	13.9	41.6	22.5	21.9	一宮	2.6	44.7	33.6	18.8	2.6	44.7	33.6	18.8	高槻	0.6	35.2	37.5	25.5	0.6	35.2	37.5	25.5
茅ヶ崎	1.5	35.9	33.7	28.4	3.1	30.7	39.1	27.0	半田	2.3	44.9	31.9	20.9	2.3	44.9	31.9	20.9	貝塚	2.1	42.5	32.7	21.8	2.1	42.5	32.7	21.8
相模原	0.8	38.6	32.5	27.6	18.4	38.0	23.1	20.3	春日井	1.2	40.8	34.0	23.9	1.2	40.8	34.0	23.9	守口	0.2	41.1	36.3	21.3	0.2	41.1	36.3	21.3
三浦	15.0	24.1	34.1	26.6	9.7	29.2	34.3	26.6	津島	3.5	40.7	34.5	21.1	3.5	40.7	34.5	21.1	枚方	0.7	35.4	35.0	27.6	0.7	35.4	35.0	27.6
桑野	3.2	41.2	27.6	27.5	7.3	30.9	36.5	25.2	稲沢	8.4	39.6	32.2	19.6	8.4	39.6	32.2	19.6	茨木	1.0	32.3	38.4	27.1	1.0	32.3	38.4	27.1
厚木	2.2	37.9	31.6	28.0	8.0	42.9	28.6	20.5	新城	11.9	44.3	22.8	20.9	11.9	44.3	22.8	20.9	八尾	1.3	41.7	34.9	20.8	1.3	41.7	34.9	20.8
大和	0.7	38.4	34.0	25.8	13.7	39.9	26.4	20.0	尾張旭	0.6	37.6	35.2	26.3	0.6	37.6	35.2	26.3	泉佐野	3.8	41.3	33.3	20.8	3.8	41.3	33.3	20.8
伊勢原	4.8	35.2	30.6	29.2	5.1	44.3	27.8	23.0	岩倉	2.5	39.2	37.2	20.9	2.5	39.2	37.2	20.9	富田林	2.3	31.8	35.5	29.5	2.3	31.8	35.5	29.5
海老名	2.0	40.3	31.4	25.7	14.9	41.6	23.8	19.7	豊明	1.4	45.0	28.8	24.2	1.4	45.0	28.8	24.2	寝屋川	0.4	37.1	37.4	24.2	0.4	37.1	37.4	24.2
座間	0.8	37.8	32.0	28.7	12.9	38.4	23.5	21.4	四日市	2.6	43.0	33.5	20.7	2.6	43.0	33.5	20.7	松原	0.7	40.0	36.9	21.9	0.7	40.0	36.9	21.9
長岡	4.5	35.6	35.7	24.0	14.1	43.0	23.5	21.3	伊勢市	4.8	33.9	36.0	25.0	4.8	33.9	36.0	25.0	大東	0.4	44.7	34.1	19.9	0.4	44.7	34.1	19.9
三ヶ丘	4.4	42.7	34.9	18.0	10.3	38.7	24.8	25.9	松阪	6.8	36.5	33.3	23.3	6.8	36.5	33.3	23.3	和泉	1.7	38.9	33.4	25.7	1.7	38.9	33.4	25.7
柏崎	7.4	44.0	26.7	22.0	12.1	44.2	19.9	23.8	桑名	2.9	42.7	33.1	21.3	2.9	42.7	33.1	21.3	柏原	1.7	44.3	32.3	21.4	1.7	44.3	32.3	21.4
新発田	10.8	33.0	29.8	26.3	14.5	41.2	24.5	19.7	上野	8.4	42.0	28.2	21.3	8.4	42.0	28.2	21.3	羽曳野	1.7	35.6	36.8	25.2	1.7	35.6	36.8	25.2
新津	8.8	30.6	33.6	26.9	12.9	44.1	22.7	20.2	名張	4.7	38.8	31.0	25.2	4.7	38.8	31.0	25.2	門真	0.3	43.3	36.4	19.3	0.3	43.3	36.4	19.3
村上	7.6	34.1	31.4	26.8	12.2	43.9	22.5	21.5	尾鷲	10.0	29.1	33.1	27.7	10.0	29.1	33.1	27.7	高石	0.4	34.1	38.8	25.5	0.4	34.1	38.8	25.5
糸魚川	13.1	39.2	26.0	21.7	2.4	35.1	37.0	25.4	熊野	12.2	28.5	30.1	29.0	12.2	28.5	30.1	29.0	藤井寺	0.6	35.9	38.8	24.0	0.6	35.9	38.8	24.0

都 市 名		1次 生産		2次 生産		交 易		消 費		都 市 名		1次 生産		2次 生産		交 易		消 費	
		%	%	%	%	%	%	%	%			%	%	%	%	%	%	%	%
東 大	阪	0.4	43.3	36.0	19.0	7.2	25.8	37.6	29.1	下	松	4.0	39.8	30.3	24.1	7.9	38.0	29.1	24.8
泉 南	倉	3.8	38.1	32.0	25.1	14.8	30.6	27.4	27.1	岩	国	4.4	35.7	33.3	26.7	15.8	34.2	24.6	25.5
四 株	塚	0.7	43.4	33.7	21.7	8.8	32.9	32.6	25.4	小	野	3.3	41.6	29.3	25.6	0.9	40.5	32.8	25.5
交 野	浜	1.4	39.2	30.3	28.2	8.6	29.2	35.2	27.9	光		5.4	41.9	30.6	22.1	5.6	32.1	34.2	28.1
姫 路	出	1.6	38.4	36.6	22.4	10.1	32.5	30.1	27.2	長	門	15.8	25.7	30.1	28.4	16.8	35.4	23.4	24.5
尼 崎	益	0.3	38.4	36.4	22.9	12.2	33.4	29.6	24.7	柳	井	15.1	27.3	31.4	26.0	15.2	36.1	25.8	22.9
明 石	大	1.7	35.6	37.4	24.8	20.4	31.4	24.0	24.1	美	祇	16.1	39.5	23.1	21.2	12.6	33.3	26.1	27.9
洲 本	安	12.8	28.8	32.9	25.2	18.1	37.3	23.8	20.7	新	南	5.4	43.5	30.3	19.9	14.0	23.8	32.5	29.7
伊 丹	江	1.0	39.1	32.3	26.2	8.6	37.8	28.1	25.5	鳴	門	14.1	32.9	26.1	26.6	19.2	33.1	25.0	22.8
相 生	平	3.0	41.3	30.3	25.4	15.9	37.4	25.4	21.1	小	松	11.5	29.4	31.1	26.9	16.3	26.2	33.5	24.0
豊 岡	岡	7.6	34.8	32.2	25.3	4.6	27.5	38.7	28.9	阿	高	18.3	33.3	26.1	22.2	8.1	35.3	27.4	29.2
加 古	倉	1.7	43.9	30.7	23.2	3.4	42.5	30.9	23.1	丸	龜	5.2	35.2	33.0	26.4	15.1	33.7	25.4	25.7
赤 穂	津	4.0	44.5	27.8	23.7	7.5	33.7	32.5	26.3	坂	出	7.5	34.4	32.4	25.6	17.6	27.0	28.0	27.3
三 木	玉	3.3	38.0	32.7	25.7	4.1	41.4	28.6	25.8	鯛	音	14.0	35.1	29.9	21.0	20.2	28.9	27.6	23.4
高 砂	笠	1.0	44.4	32.1	22.4	9.4	41.4	27.9	21.2	今	治	4.4	39.3	33.4	22.7	2.8	27.4	39.6	29.8
川 西	総	1.1	33.3	37.1	27.9	9.8	41.9	25.3	22.8	宇	和	16.9	20.2	36.3	26.6	8.9	31.9	33.9	25.1
三 田	高	5.9	33.5	30.5	29.4	18.9	32.7	25.7	22.6	新	居	2.8	39.7	32.4	25.0	9.2	33.8	31.3	25.8
大 和	新	1.4	41.0	34.0	22.8	16.8	36.0	25.9	21.3	西	条	8.2	42.6	25.8	23.5	7.8	32.4	33.5	26.4
大 和	竹	4.2	37.3	32.5	25.2	9.7	37.2	29.8	23.5	大	洲	18.0	31.0	25.2	25.9	11.7	33.4	29.5	25.2
樺 原	三	2.2	34.4	35.1	27.7	6.0	38.1	30.6	24.9	伊	予	5.8	44.6	29.9	19.8	19.3	31.8	29.1	19.8
桜 井	尾	5.1	34.6	33.9	25.2	6.0	35.1	35.1	23.5	伊	予	17.4	32.2	26.9	23.5	17.9	34.7	24.2	23.4
五 條	因	12.0	32.7	30.3	23.8	12.0	40.7	25.2	22.0	北	条	18.8	31.0	26.7	23.3	13.5	27.7	31.5	27.1
御 所	福	6.6	40.3	29.2	23.3	2.8	40.2	33.0	23.5	東	国	13.0	41.6	22.4	22.9	5.5	36.3	32.4	25.7
生 駒	三	1.1	29.2	39.6	29.3	14.4	29.4	23.9	25.1	南	国	20.7	23.6	26.8	29.0	13.6	29.8	30.3	26.3
和 歌	庄	3.2	31.9	38.0	25.9	18.5	32.3	23.3	25.9	宿	毛	21.4	26.7	28.1	23.8	8.4	33.9	32.5	25.1
海 南	大	4.9	39.2	31.9	24.0	3.3	44.8	28.5	23.4	大	牟	3.6	31.5	36.2	28.6	10.1	33.0	30.4	26.5
橋 本	東	9.8	29.0	33.9	26.9	9.2	41.5	23.2	25.6	直	方	3.4	36.5	33.5	26.4	18.0	28.0	30.0	23.9
有 田	宇	18.5	35.5	25.9	20.1	5.3	32.9	34.8	26.9	柳	川	16.7	31.4	29.4	22.4	13.7	32.1	30.6	23.7
御 坊	甘	16.4	24.6	33.2	25.7	16.9	21.9	32.6	28.5	甘	木	16.6	30.8	28.0	24.5	19.1	30.6	26.1	24.2
田 辺	徳	15.4	22.2	36.5	25.9	5.5	31.2	36.9	26.0	八	女	14.2	31.7	29.5	24.4	21.0	27.1	23.6	28.3
鳥 取	防	6.5	30.6	33.6	29.1	6.3	35.5	32.1	26.1	筑	後	13.0	34.6	27.6	24.7	9.4	40.3	24.2	26.0

IV. 機能類型

表3は常住地による平成2年国勢調査の結果にもとづいて、都市の機能類型を独自の区分によってまとめ、その該当都市を示したものである。この表の機能類型の詳細については表の末尾に注記しておいたが、前記4つの基本機能の各々についてA～C3段階の特化率による合計12の記号の組合せによって出来る大まかな類型区分35種と、産業大分類別特化機能14種との両方の総合的な組合せによる合計202種の細分機能類型を示したものである。

その左側A～Cの4文字は表2の構成比の数字をそれぞれ3つの階級に区分しA～Cの記号化したものであり、右側の記号は特化産業を該当する英文のイニシャルで示したもので、基本的機能の全体的バランスと特化する特定機能とを総合的に示す機能類型としてまとめたつもりである。

特化産業の選定は次の方法によった。まず、全国各市の産業大分類別就業人口表から各就業人口率を算出し、一覧表を作成した（超大なため表示は省略。）この表中の産業大分類別数値を各産業別の市部平均値と対比して、特化とみなす限界値を順次決定していった。さらに、その限界値の正当性を検証するため、各産業別に横軸に0.1%単位の就業比、縦軸に該当する市数を示す棒グラフ（図示省略）を作成して特化限界率と劣るとみられる限界率とをそれぞれ決定した。機能の劣弱さを示す限界率をも考慮したのは、特化産業のない都市の場合でも劣弱産業をも有しない都市（真の標準的都市）と劣る産業は有する都市（標準都市に準ずる都市）とに区分する方がより厳密な類型区分になり得ると考えたからである。

就業率の分布頻度を示すこの棒グラフの作成によって、各産業毎に率や分布頻度に著しく異なるタイプがみられることが判った。具体的に述べると、農業では都市別就業率率の分布は0.1～36.6%と巾広く平準化しているが、グラフの描く山の頂きは1%辺りの低率部分にある。林業は高いものでも2.3%と低率で、際立った山が0.0%にある。漁業と鉱業のグラフは形がかなり相似しており、共に25%前後迄と分布は巾広いが、際立った山は共に0.0%にある。建設業は3.4～19.3%と比較的集中傾向を示し、山は9%位にある。製造業は最も平準化しており、分布の巾は5～57%迄と広く、際立った山はみられない。

電気・ガス・熱供給・水道業は高くても2.8%で集中の傾向が強く、分布の山は0.4%にある。運輸・通信業も2.2～15.1%と集中的で、山は5.2%である。卸売・小売業、飲食店は11～33%とかなり巾広く、平準化したなだらかな山型を示すが、ピークは23.2%と高い。金融・保険業は集中的で1～7.5%の間にあり、山は2%強にある。不動産業は高いものでも3.8%に過ぎず、山は0.3%の低位にみられる。サービス業は11～45%と製造業、農業に次いで巾広い分布を示し、分布の山も平準化しており21.2%と22.4%とに2つみられる。公務の分布は比較的まとまっており、最小で1.2%、山は2.9%にあるが、26.4%と著しく高率の都市もある。最後に、分類不能の産業であるが、これは林業や公益関係の産業と姿が似ており、最高でも2.1%、ピークは0.0%である。

この表の基本類型については、かなり詳細な区分となったが、以下のハイフオン右側の場合は左側に類似するタイプと見て差支えなからう。

BABC - BACC、BBBC、CABC

BACC - BABC、BBCC、CACC

BBAB - BBBB、BCAB、CBAB

BBBA - BBBB、BCBA、CBBA

BBBB - BBAB、BBBA、BBBC、BBCB、BCBB、CBBB

BBBC-BABC、BBBB、BBCC、CBBC
 BBCB-BBBB、BBCC
 BBCC-BACC、BBBC、BBCB
 BCAA-BCAB、BCBA、CCAA
 BCAB-BBAB、BCAA、BCBB、CCAB
 BCBA-BBBA、BCAA、BCBB、BCCA、CCBA
 BCBB-BBBB、BCAB、BCBA
 BCCA-BCBA
 CABC-BABC、CACC、CBBC
 CACB-CACC
 CACC-BACC、CABC、CACB
 CBAA-CBAB、CBBA、CCAA
 CBAB-BBAB、CBAA、CBAC、CBBB、CCAB
 CBAC-CBAB、CBBC
 CBBA-BBBA、CBAA、CBBB、CCBA
 CBBB-BBBB、CBAB、CBBA、CBBC
 CBBC-BBBC、CABC、CBAC、CBBB
 CCAA-BCAA、CBAA、CCAB、CCBA
 CCAB-BCAB、CBAB、CCAA
 CCBA-BCBA、CBBA、CCAA

機能類型の全く一致する都市が10市以上の多数を占めるものは、9基本類型、3特化機能の合計291市(市数の44%)を算える。すなわち、BABC-Ma(製造業)足利、富士など12市、BACC-Ma太田、安城など36市、BBBB-Ma米沢、倉敷など19市、BBBB-Sa(卸売・小売業、飲食店)静岡、和歌山など18市、BBBB-…(特化なし)川越、長野など70市、BBBC-Ma高岡、浜松など19市、BBCB-Ma勝田、東広島など10市、BBCB-…花巻、伊万里など19市、BBCC-Ma鹿沼、伊那など19市、CABC-Ma桐生、岡崎など11市、CBBB-Ma平塚、福山など11市、CBBB-Sa京都、堺など13市、CBBB-…藤沢、枚方など24市、CBBC-Ma一宮、四日市など10市で、その基本型ではBBBBが107市と最も多く、CBBBの48、BACCの36、BBCBの29がこれに次ぎ、特化機能ではMaの147が最大で、以下特化なしの113、Saの31の順となる。

その他、大都市同士で機能類型を全く同じくするものには、CBAB-Saの名古屋と広島、CBAB-T・Saの神戸と北九州がある。なお、東京特別区部はCBAB-Sa・Pr・Se、大阪はCBAC-Sa・Pr、また、横浜はCBBB-T・Seで、各々機能的特性を異にしている。そして、仙台CCAA-Sa・Se、福岡CCAA-Sa・Pr・Se、札幌CCAA-C・T・Sa・Pr・Seの3市は特化機能は若干異なるが基本型は同じく、機能の類似した都市といえよう。

表3. 全国都市別機能類型（平成2年国勢調査、常住地による）

機能類型	該当する都市	機能類型	該当する都市	機能類型	該当する都市	機能類型	該当する都市
ABBC-A	八日市場	BAIC-Ma-T	東海、鈴鹿	BBB-Sa	高山、静岡、伊勢、和歌山、浜田、尾道、大牟田、中津	BBBC-Ma	下館、小山、館林、本庄、深谷、高岡、新藤、清川、上田、浜松、沼津、松本、藤枝、額沢、上野、長浜、近江八幡、泉佐野、笠岡
ABCB-A	黒石、山梨、鹿島、菊池、豊後高田、大口	BAIC-Ma	高萩、南足柄、徳野、小野	BBB-Se	日光、伊勢原、荒尾	BBBC-T	鏡子、清水
ABCC-A	江刺、二戸、村山、尾花沢、茨城、塩山、中野、真山、西都		結城、北茨城、真岡、太田、小千谷、加茂、見附、熊、栃尾、五泉、水見原、小矢部、武生、勝山、新江、野々根、岡、中津川、美濃、羽島、島田、磐田、笠井、流北、湖西、磐南、安濃、西尾、蒲郡、常滑、大府、龍野、加西、井原、川之江	BBB-O	徳ヶ島、牛久、新発田、鳥取、境港、防府	BBBC-Fo-Ma	天竜
ABCC-A-Fo	遠野	BAIC-Ma		BBB-Fo-O	鹿野	BBBC-Fis-T	石巻
ABCC-A-Fis	阿久根			BBB-Fis-Se	勝浦	BBBC-C-T	新南陽
ABCC-Fis-C	藤前高田			BBB-C-Pu	敦賀、川内	BBBC-Ma-T	伊予三島
ABCC-A	五所川原、八幡浜	BAIC-C-Ma	十日町	BBB-C-T	木更津、市原	BBBC-Ma-Sa	三条、津島
ABCC-A-Fis	西津	BAIC-Ma-T	亀山	BBB-C-Sa	徳山	BBBC-Fis-Mi-T	津久見
ABCC-Fis	室戸、須崎	BAIC-T-Sa	下関	BBB-T-Fin	姫田、佐倉	BBBC-...	加須、岩槻、豊橋、鶴巻等
ABCC-Fis-T	土佐清水	BBBA-Sa	七尾、津、天理、水俣	BBB-Sa-Se	岡山	BBCA-Se	加賀
ACCA-A-Se	瀬川	BBBA-O	津島、久尾、齋藤、善通寺	BBB-Se-O	八戸	BBCA-O	飯坂町
ACCB-A	土佐、竹田、小林	BBBA-Se-O	名瀬	BBB-Fis-C-T	喜津、串木野	BBBC-A	大田、高梁、任原、大洲、北条、加世田
ACCB-A-Fo	安芸	BBBA-C-T-O	留萌	BBB-Fis-Pu-O	尾鷲	BBBC-C	久慈、男鹿、大町、西蔵
ACCB-A-Fis	平戸	BBBA-Fo-C-Se-O	夕張	BBB-C-Pu-Se	砂川	BBBC-Ma	勝田、矢部、魚津、羽咋、芽野、英彦加茂、守山、船社、東広尾、旗手
ACCB-A-C	士別	BBBA-A	十和田、旭、山形	BBB-Fis-C-T-O	稲内	BBBC-Pu	松浦
ACCB-A-Se	富良野	BBBA-Fis	秋別、宮古、大船渡、釜石、気仙沼、宿毛、柳川		水沢、一関、古川、岩沼、崔代、大館、本荘、大曲、鶴岡、酒田、新庄、会津若松、いわき、石川、那珂、今市、沼田、浜川、川越、熊谷、須原、野田、茂原、真金、小田原、村上、上郷、忍任、長野、厚志、三鷹、松原、香取山、亀岡、泉野、洲本、豊岡、三木、三田、大和	BBBC-A-O	東根
ACCB-A-O	舟橋、八戸、西之浜	BBBA-C	豊栄、小浜、下松、岩国、日田	BBB-...	郡山、碓井、五城、橋本、倉吉、出雲、益田、江津、津山、三原、三島、益田、小野田、津井、小松島、丸亀、坂出、今治、直方、甘木、八女、筑後、行橋、八代、宇土、佐伯、臼杵、都塚、延岡、日南、日向	BBBC-Fo-Mi	芦別
ACCB-Fis	牛深	BBBA-Ma	米沢、白河、栃木、秩父、喜松山、桑野、小松、諏訪、碓氷、名張、彦根、草津、赤穂、御所、清洲、倉敷、玉野、大竹、光		宮城、竹原	BBBC-Mi-C	赤平
ACCB-Fis-O	根室	BBBA-Pu	宮城、久喜、幸手、沼津、新潟、鳥取、秋田		名取、久喜、幸手、沼津、新潟、鳥取、秋田	BBBC-Ma-O	函分
ACCB-A-Fis	杆籠・巻水	BBBA-T	山形、郡山、土浦、宇都宮、前橋、長岡、富山、福井、甲府、松本		山形、郡山、土浦、宇都宮、前橋、長岡、富山、福井、甲府、松本	BBBC-A-Fo-C	鹿角
BAIC-Ma	足利、佐野、伊勢崎、行田、羽生、富士吉野、富士、真川、知多、八日市、横須、大川	BBBA-T				BBBC-A-C-O	美瑛

機能類型	該当する都市	機能類型	該当する都市	機能類型	該当する都市	機能類型	該当する都市
BBCC-Fo-C-0	三笠	BCMA-A-Se	指宿	BCBB-Fis-Sa	宇和島	CBAP-Sa-Se	金沢
BBCC-C-Ma-Pu	柏崎	BCMA-Fis-Se	鳥羽	BCBB-C-Sa	北見	CBAP-T-Sa-Fin	船橋
BBCC...	花巻、白石、上山、原町、常陸太田、笠原、黒磯、新波、輪島、鳴門、阿南、伊予、豊前、多久、伊万里、武蔵、五名、宇佐、出水	BCMA-C-Se	伊達、具志川、名護	BBB...	横手	CBAP-Sa-Fin-Pr	市川
BBCC-A	南陽、白根、蕨、安来	BCMA-T-0	千歳	BCA-Se	つくば、神川	CBAP-Sa-Pr-Se	東京特別区部、池田、吹田
BBCC-Fo	新見	BCMA-Sa-Se	下田、徳島、久留米、本渡	BCA-0	三沢	CBAP-Sa-Fin-Pr-Se	西宮
BBCC-Fis	相馬	BCMA-Sa-0	佐世保	BCB-A	南陽	CBAL-Sa-Pr	大阪
BBCC-C	糸島川、新井、大野、平田	BCMA-Se-0	網走、山口、小郡、奈良、大村	CBAB-Ma	大月	CBAC-C-T-Sa	摂津
BBCC-Ma	角田、長井、喜多、二本松、下妻、水海道、鹿沼、大田原、藤岡、富岡、安中、茨城、伊勢、塩野、栗郷、佐久、掛川、新緑、因島	BCMA-Fis-C-0	福江	CBAB-C-Ma	富士吉田	CBBA-C	田川
BBCC-A-Ma	須賀川、岩井、綾部	BCMA-C-T-0	水戸	CBAB-Ma	桐生、都賀、土岐、可児、四崎、瀬戸、大山、江崎、尾西、知立、西脇	CBBA-Fin	河内長野
BBCC...	北上、湯沢、香河江、天童、飯田、小郡、高田、美穂	BCMA-C-Sa-Se	中村	CBAB-Ma-T	小牧	CBBA-Se	八王子、立川、府中、日野、栗村山、清瀬、稲城、大株
BCAA-Sa-Se	松山、高知、長崎、宮崎	BCMA-C-Se-0	滝川、平良、石垣	CBAB-C-Ma-T	八潮	CBBA-0	新藤、横須賀、宇治、呉
BCAA-T-Se-0	成田	BCMA-C-Pu-Se-0	石川	CBAB-Ma	日立	CBBA-Sa-Se	千葉、大阪狭山、甘日市
BCAA-Sa-Fin-Se	水戸	BCMA-C-Sa-Pr-Se	伊原	CBAB-Mi-0	歌志内	CBBA-Fin-Se	乳浜子、小平、田原、夏久留米
BCAA-Sa-Se-0	水戸	BCMA-T-Sa-Se-0	裾広	CBAB-Ma-0	横瀬	CBBA-Pr-Se	町田
BCAA-Sa-Fin-Se-0	旭川、秋田、新井野、佐賀	BCMA-T-Sa-Se-0	岩手沢	CBAC-Ma	岡谷、刈谷、豊田、高浜、府中	CBBA-Se-0	和光
BCAA-T-Sa-Fin-Se-0	盛岡	BCMA-C-T-Sa-Fin-Se-0	松江	CBMA-T-Sa-0	多賀城	CBBA-C-Se-0	山田
BCAA-T-Sa-Fin-Se-0	青森	BCBB-A	弘前	CBMA-T-Sa-Fin-Se	習志野	CBBA-Sa-Se-0	飯塚
BCAB-Sa	高松	BCBB-Fis	萩、長門	CBAB-Sa	春日部、名古屋、広島	CBBA-Fin-Pr-Se	所沢、三鷹、保谷、鎌倉、蓮子
BCAB-Sa-Se	新潟	BCBB-T	佐原、三浦	CBAB-C-T	苫小牧	CBBA-C-T-Sa-Se	澁川
BCBA-Se	新緑、勝野、入吉	BCBB-Sa	御坊、田辺、米子	CBAB-T-Sa	小樽、旭川、神戸、北九州	CBBA-C-T-Se-0	豊別
BCBA-0	名寄、恵庭、むつ、越山、鹿屋	BCBB-Se	鳥取	CBAB-Sa-Fin	与野、越谷	CBBA-Sa-Fin-Pr-Se	宝塚
				CBAB-Sa-Pr	豊中	CBBA-C	新藤、真淵村山、中野

機能類型	該当する都市	機能類型	該当する都市	機能類型	該当する都市
CBBC-Ma	飯能、青梅、平塚、海老名、豊明、城陽、和泉、交野、加古川、大和高田、福山	CBBC-Sa	草加、松原	CCBA-Fin-Pr-Se	岡布、小金井、国分寺、国立、狛江
		CBBC-C-T	戸田、門真		
CBBC-T	茨木、明石	CBBC-Ma-T	岩倉、大東、四條畷	<p>(注) 機能類型について</p> <p>表中、機能類型欄に使用した記号は、例えばABCCのようなA, B, Cの記号4個の組合せと一で結ばれた例えばA・Oのような1～5個の記号または・の記号との総合的な組合せからなる。各記号のもつ意味は、以下のとおりである。</p> <p>まず、最初のA, B, Cの4つの記号は、それぞれ左から各都市の常住地による産業就業人口における第1次生産、第2次生産、交易、消費の4つの基本的都市機能に関連する就業人口百分比の全国市部平均値と対比した特化の度合いをA(高)、B(中)、C(低)の3段階の何れかで示したものである。具体的には、第1次生産(農・林・漁業)はA22%以上、C3%未満で、以外はB(全国市部平均3.8%)で示す。第2次生産(鉱・建設・製造業)はA45%以上、C26%未満で、それ以外がB(平均32.7%)である。交易(公益関連・運輸通信・販売・金融保険・不動産業)は、A40%以上、C27%未満、他がB(平均36.0%)である。また、消費(サービス・公務)はA30%以上、C22%未満、他がB(平均26.9%)である。即ち、これがABCCであれば、当該市の第1次生産22%以上、第2次生産45%未満で26%以上、交易27%未満、消費22%未満であることを示す。</p> <p>次に、ハイフオンで結ばれた右側の記号は、各市における特定の大大分類産業の業者数の割合が全国市部平均値に較べて特化することを示し、Aは農業17%以上(全国市部平均3.4%)、Foは林業1.5%以上(平均0.1%)、Fiは漁業5%以上(平均0.3%)、Miは鉱業4%以上(平均0.1%)、Cは建設業12%以上(平均9.2%)、Maは製造業31%以上(平均23.4%)、Puは電気・ガス・熱供給・水道業1.5%以上(平均0.6%)、Tは運輸・通信業7.5%以上(平均6.2%)、Saは卸売・小売業、飲食店24.5%以上(平均24.3%)、Finは金融・保険業5%以上(平均3.6%)、Prは不動産業2%以上(平均1.3%)、Seはサービス業25.5%以上(平均23.6%)、Oは公務(他に分類されないもの)5%以上(平均3.3%)であり、・はこれらの産業いずれにも特化しておらず平均(標準)的であるか、あるいはそれ以下であることを示すものである。</p>	
CBBC-Sa	高崎、岐阜、尾張旭、京都、向日、堺、寝屋川、羽曳野、高石、藤井寺、姫路、尼崎、大分	CBBC-Ma-Sa	多治見、東大阪		
CBBC-Fin	富士見、柏、流山、鎌ヶ谷、川西	CBBC---	川口		
		CCAA-Sa-Se	仙台、新宮、鹿児島		
CBBC-Se	東大和、川崎、長岡京、富田林	CCAA-C-Se-Se	宜野湾、沖縄		
CBBC-O	狭山、入間、伊丹	CCAA-C-Sa-O	春日		
CBBC-C-Fin	志木	CCAA-T-Se-Se	函館		
CBBC-Ma-T	高砂	CCAA-Sa-Fin-Se	太宰府		
CBBC-Ma-O	各務原	CCAA-Se-Pr-Se	笑面、福岡		
CBBC-T-Fin	八千代、四街道	CCAA-Sa-Se-O	熊本、別府		
CBBC-T-Se	横浜	CCAA-Fin-Pr-Se	武蔵野		
CBBC-Se-Fin	大宮、蕨、松戸	CCAA-C-Sa-Se-O	浦添		
CBBC-Sa-Fin-Se	浦和	CCAA-Sa-Fin-Pr-Se	芦屋		
CBBC-Se-Fin-Pr-Se	生駒	CCAA-Sa-Pr-Se-O	那覇		
CBBC---	取手、上尾、浦川、北本、上福岡、三郷、板戸、昭島、福生、秋川、藤沢、茅ヶ崎、相模原、厚木、大和、座間、春日井、八幡、岸和田、高槻、枚方、相生、履原、新居浜	CCAA-C-T-Sa-Pr-Se	札幌		
		CCAB-C-Sa	大野城		
		CCAB-T-Se	網走		
CBBC-C	鳩ヶ谷	CCAB-T-Sa-Fin-Pr-Se	浦安		
CBBC-Ma	古河、大垣、一宮、半田、四日市、桑名、泉大津、貝塚、八尾、柏原	CCBA-Pr-Se	多摩、熱海		
CBBC-T	守口	CCBA-Sa-Fin-Se	奈良		

V. おもな都市の特化機能

表4は平成2年国勢調査による就業人口5万人以上の主要211都市における特化機能の一覧である。特化機能は産業名でなく一般的な呼称におきかえて記した。サービス業の場合は、(一般)サービス、文教、観光・保養、基地のいずれかであり、公務の場合は行政と軍事とに分けられる。この表をみて気が付くことは、北海道・東北北東部と南四国・九州・沖縄の南北両縁辺地域の都市には2つ以上の特化機能を併せ持つものが目立つこと、東京、大阪など首都圏、阪神圏の核心都市やその近郊の衛星住宅都市群も母都市と同じく多機能型であるといえる。とりわけ、札幌、青森、浦安では5機能の多くに亘って特化をみている。日本中央部では主要都市の殆どは単機能型で、まれに特化機能を欠く(第2次・第3次機能が程よく調和した)都市が介在する状況である。

東京特別区部、政令指定都市、および県庁所在都市についてその特化機能をみると、様々なタイプの都市があることがわかる。特化機能数の多い方から、筆頭は建設業、交通、商業、不動産業、サービス業の5機能を併せ持つ札幌、同じく交通、商業、金融、サービス業、行政の青森で、以下商業、金融、サービス業、行政の盛岡、松江、商業、不動産業、基地、行政の那覇、商業、金融、サービス業の水戸、浦和、商業、金融、観光・保養の奈良、商業、不動産業、サービス業の東京特別区部、福岡、商業、サービス業、行政の秋田、佐賀、熊本、交通、商業の神戸、北九州、交通、サービス業の横浜、商業、不動産業の大阪、商業、サービス業の仙台、千葉、新潟、金沢、岡山、徳島、松山、高知、長崎、宮崎、鹿児島11市、サービス業、行政の山口、商業の山形、宇都宮、前橋、富山、福井、甲府、岐阜、静岡、名古屋、京都、和歌山、広島、高松、大分14市、サービス業の川崎、津、大津、行政の福島、鳥取、特化産業のない標準都市の長野に至る迄、17のタイプ分けが出来るし、各都市毎の機能特性と都市間相互の差異がよく判る。政令指定・県庁所在地クラスの都市では、商業に特化するものが49都市中、41と最も多く、次いでサービス業の27、行政の10が続く。まとめてみると、交易機能の特化都市延べ57市が最多で消費の39がこれに次ぎ、生産関係は札幌に建設業がみられるだけで工業都市は1つもない。工業都市というイメージの強い川崎や北九州でも工業機能に特化するとは云えなくなっている。なお、工業都市が他の特化機能を併せ持つ例は、名古屋と大阪の付近でいくつか見られるだけで多くはない。

この表から東京、名古屋、大阪の3大都市圏域の衛星都市群の特化機能をみると明確な特徴がみられる。それは、金融とサービス業に特化する東京圏に対し、名古屋圏では工業一辺倒、大阪圏では商業に特化する都市が多いことである。

表4. 主要都市の特化機能（平成2年国勢調査；常住地による）

注）特化機能欄の順位は特化度の高さによる。

都市名	特化機能	都市名	特化機能
札幌	商業・不動産・建設・サービス・交通	市川	金融・不動産・商業
函館	商業・交通・サービス	船橋	金融・交通・商業
小樽	交通・商業	木更津	交通・建設
旭川	商業・軍事・サービス	松戸	金融・商業
室蘭	交通・建設・サービス・商業	野田	—
釧路	交通・商業	佐倉	交通・金融
帯広	軍事・建設・商業・サービス	習志野	金融・交通・商業・サービス
北見	建設・商業	柏	金融
苫小牧	交通・建設	市原	建設・交通
青森	商業・行政・交通・金融・サービス	流山	金融
弘前	田園	八千代	交通・金融
八戸	軍事・商業	我孫子	金融・サービス
盛岡	サービス・商業・金融・行政	浦安	金融・不動産・交通・商業・サービス
仙台	商業・サービス	東京特別区部	不動産・商業・サービス
石巻	水産・交通	八王子	文教
秋田	商業・サービス・行政	立川	サービス
山形	商業	武蔵野	金融・不動産・サービス
鶴岡	—	三鷹	不動産・サービス・金融
酒田	—	青梅	工業
福島	行政	府中	サービス
会津若松	—	昭島	—
山形	商業	調布	不動産・サービス・金融
いわき	—	町田	不動産・サービス
水戸	商業・金融・サービス	小金井	不動産・金融・文教
日立	工業	小平	サービス・金融
土浦	商業	日野	サービス
勝田	工業	東村山	サービス
つくば	文教	国分寺	金融・不動産・文教
宇都宮	商業	東久留米	金融・サービス
足利	工業	多摩	サービス・金融
小山	工業	横浜	交通・サービス
前橋	商業	川崎	サービス
高崎	商業	横須賀	軍事
桐生	工業	平塚	工業
伊勢崎	工業	鎌倉	不動産・観光保養・金融
太田	工業	藤沢	—
川越	—	小田原	—
熊谷	—	茅ヶ崎	—
川口	—	相模原	—
浦和	金融・商業・サービス	秦野	工業
大宮	金融・商業	厚木	—
所沢	金融・不動産・サービス	大和	—
岩槻	—	海老名	工業
春日部	商業	座間	—
狭山	軍事	新潟	商業・サービス
上尾	—	長岡	商業
草加	商業	上越	—
越谷	金融・商業	富山	商業
入間	軍事	高岡	工業
朝霞	軍事	金沢	商業・サービス
新座	建設	小松	工業
三郷	—	福井	商業
千葉	商業・サービス	甲府	商業

都市名	特化機能	都市名	特化機能
長野	—	箕面	不動産・商業・サービス
松本	商業	羽曳野	商業
上田	工業	門真	交通・建設
飯田	—	東大塚	工業・商業
岐阜	商業	神戸	交通・商業
大垣	工業	姫路	商業
各務原	軍事・工業	尼崎	商業
静岡	商業	明石	交通
浜松	工業	西宮	不動産・金融・商業・サービス
沼津	工業	伊丹	軍事
清水	交通	加古川	工業
三島	—	宝塚	不動産・金融・サービス・商業
富士宮	工業	川西	金融
富士	工業	奈良	金融・観光保養・商業
焼津	工業	橿原	—
藤枝	工業	和歌山	商業
名古屋	商業	鳥取	行政
豊橋	—	米子	商業
岡崎	工業	松江	行政・金融・商業・サービス
一宮	工業	岡山	商業・サービス
瀬戸	工業	倉敷	工業
半田	工業	広島	商業
春日井	—	呉	軍事
豊川	工業	福山	工業
刈谷	工業	下関	交通・商業
豊田	工業	宇部	—
安城	工業	山口	行政・サービス
西尾	工業	徳山	建設・商業
小牧	工業・交通	防府	軍事
東海	交通・工業	岩国	建設
津	サービス	徳島	商業・サービス
四日市	工業	高松	商業
伊勢	商業	松山	商業・サービス
松阪	—	今治	—
鈴鹿	工業・交通	新居浜	—
大津	サービス	高知	商業・サービス
京都	商業	北九州	交通・商業
宇治	軍事	福岡	商業・不動産・サービス
大塚	商業・不動産	大牟田	商業
堺	商業	久留米	商業・サービス
岸和田	—	佐賀	商業・サービス・行政
豊中	不動産・商業	長崎	商業・サービス
池田	不動産・商業・サービス	佐世保	軍事・商業
吹田	不動産・商業・サービス	熊本	商業・サービス・行政
高槻	—	八代	—
守口	交通	大分	商業
枚方	—	別府	観光保養・商業・軍事
茨木	交通	宮崎	商業・サービス
八尾	工業	都城	—
寝屋川	商業	延岡	—
松原	商業	鹿児島	商業・サービス
大東	交通・工業	那覇	商業・行政・不動産・基地
和泉	工業		

各特化産業（機能）について、それが当該都市にとって唯一の特化機能であるか否かを調べてみると、分類不能を含む14の大分類毎では製造業の単一特化性が際立って高く、農業がこれに次ぎ、1都市で2以上の特化機能を有するものが多いことの反映で、他の産業では単一特化都市が半数にも及ばない。単一特化性の特に低いものは、建設業や不動産業、サービス業などである。また、特化産業を欠く都市数は127で、総数の20%足らずである。

VI. 産業別機能特化都市の分布

図1～12は各産業に特化する都市及び特化するものない都市を地図上に示したものである。ただし、総数の少ない林業の9市、鉱業の4市、電気・ガス・熱供給・水道業の9市、および分類不能の産業の18市については図示を省略した。

以下、各産業特化都市について地域分布上の特徴を記してみよう。

図1の黒円は農業特化都市の分布を示すが、大きく2地域に分れ、1つは本州の東半部全域、1つは四国・九州にまたがっている。この他にも、北海道中央部と中国地方中部に小さなまとまりがみられる。本図から、農業に特化する所謂田園都市は僻遠とも云える地域を中心に分布し、工業化の進んだ東海道・山陽ベルト地帯には存在をみないことがわかる。

林業特化都市は9つしかなく、分布は道央の旧産炭地、奥羽・北上両山地、雨の多い東・南海の山地、中国山地などに点在する。

図2は漁業特化都市の分布を示し、北海道北・東岸、三陸海岸、南四国や西九州の沿岸域をはじめ、房総半島、熊野灘、豊後水道、山陰西部海岸などにまとまっている。出入りに富んだリアス式地形の海岸に立地する漁業基地が多い。

鉱業特化都市は、エネルギー転換により斜陽化した産炭地の中で僅かに残る道央の歌志内、赤平、芦別のほか、石灰石の町津久見の4つがあるに過ぎない。

図3は建設業特化都市の分布を示す。まとまった集積をみるのは、北海道をはじめ、首都圏、信越、山口・北九州、沖縄の5地域である。分布は全国的ではあるが、小地域集中性もかなり高い。

図4は製造業特化都市で、産業別の数の上では最も多い。九州で大川、国分の2市に分散立地する他は、東海地方を中心に東北南部から山陽にかけての広範囲にわたり、極めて集中的に分布する。ただ、東京圏や京阪神圏（南部を除く）では殆ど分布をみない。農業特化都市の少ない地域に限って集中するという特徴がある。

電気・ガス・熱供給・水道業の特化都市は全国で9つと非常に少なく、その分布も点的で敦賀、尾鷲、川内など大規模な原子力・火力発電所をもつ都市がこれに該当する。

図5は運輸・通信業特化都市の分布図で、首都圏をはじめ、道央、仙台、名古屋、阪神、北九州などの人口集積地に集中的に分布する。いずれも、鉄道、港湾、空港、高速道路などの交通上の要地である。

図6は卸売・小売業、飲食店特化都市の分布を示す。いわゆる狭義の商業都市であり、全国的に拠点都市として多数が分散立地をみる。全国、地方をはじめ、県域、大地域の中心都市がこれにあたり、もちろん、大都市圏では衛星都市を含め、複数として表現される。

図7は金融・保険都市で、数量的にもそれほど多くはないが、これは近年伸びている産業である。分布は非常に特徴的で、世界金融の大中心に成長した首都圏への一極集中の傾向が強い。これに次ぐのが大阪圏であるが、その他の地方では僅かに青森、盛岡、水戸と松江、太宰府の5市をみるだけである。

図8は不動産業特化都市であるが、狂乱地価のメッカとも云うべき東京、大阪を2大核心と

し、これに近郊住宅都市を含む大都市集中型を示している。他に、地方大中心の札幌、福岡と沖縄の中心那覇、そしてリゾート地の熱海、伊東がこれに含まれるだけで、数的には多くない。中京地域には1つの不動産特化都市もみられない。

図9はサービス業特化都市を示している。該当都市は非常に多く、分布が著しいのは東京、札幌、大阪、福岡、那覇を中心とする5大圏域であり、全国的な拠点集中型をみせる。この業種に含まれる都市機能としては、大多数を占める一般のサービス業の他、観光・保養、文教、宗教などがある。一般サービス業は、東京特別区部や仙台、札幌、福岡をはじめ、地方文化の中心地などが含まれ、観光・保養の都市としては、登別、日光、成田、勝浦、鴨川、鎌倉、熱海、伊東、下田、七尾、加賀、鳥羽、奈良、別府、指宿などが含まれている。文教都市はつくば、八王子、小金井、国分寺、国立など、宗教都市の代表は天理である。

図10は公務（他に分類されないもの）特化都市の分布を示す。分布は全国的ではあるが、特定地域への偏向性も強く、北海道、南関東、北九州、南西諸島にまとまって多い。公務都市は地域の行政中心地と軍事機能をもつ自衛隊施設所在地とに大別され、都市の数としては後者がやや多い。行政に特化する都市は盛岡、秋田、福島、鳥取、松江、山口、佐賀の県政中心をはじめ、道央や東関東、北九州、南西諸島などにもみられる。また、軍事に特化する都市は、旭川、千歳、むつ、朝霞、横須賀、舞鶴、伊丹、呉、善通寺、佐世保、熊本をはじめとする都市人口の割に規模の大きい自衛隊の駐屯地であり、北海道から東北北部、首都圏、九州での分布が目立っている。

次に、分類不能の産業就業者は32万人（0.5%）を超え、林業、鉱業の就業者数を大巾に上まわり、最近10年間で5.2倍に増えた。これに特化する都市は18市あり、千葉、松戸、川口、立川、町田など東京圏に10市、京都、堺、尼崎、神戸、奈良など関西圏に8市と2大都市圏だけに集中する。

図11は標準都市で、特化産業を欠く機能的な特徴の少ない都市の分布図である。東日本、西日本同数の合計50都市であるが、分布は特徴的で東京圏と関西圏、それも外周域にまとまって分布している。おもな標準都市としては、会津若松、川越、藤沢、長野、宇部などがあるが、これらはいずれも生産（工業）、交易（商業）、消費（サービス業）のバランスがよくとれた平均的な都市である。

図12は標準都市に準ずる都市で、標準都市と異なる点は特化度の劣る産業を有することである。その分布は中央日本や南北の縁辺部を除き、南関東・北関東、山陰・四国・北九州など東・西日本の中間地帯に集中的であり、標準都市の両外側に多く立地をみる。おもな標準都市には熊谷、小田原、豊橋、新居浜、八代などがある。

図1 農業特化都市

- ・農業就業者率 17%以上の56市
(全国市部平均3.4%)
平成2年国勢調査による(図1~12共)

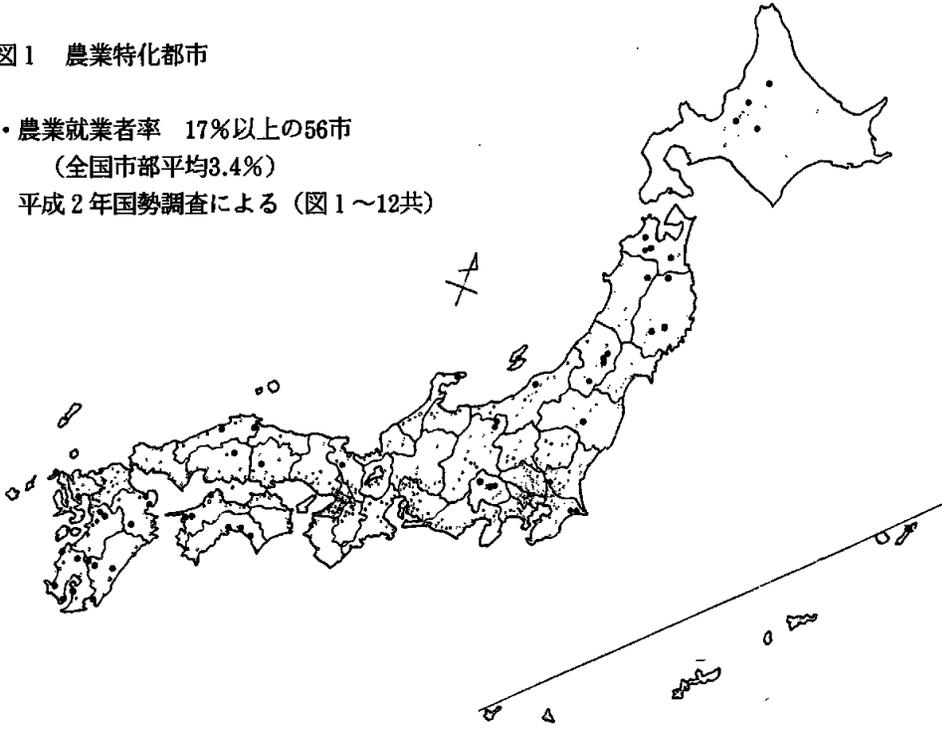


図2 漁業特化都市

- ・漁業就業者率 5%以上の31市
(全国市部平均0.3%)

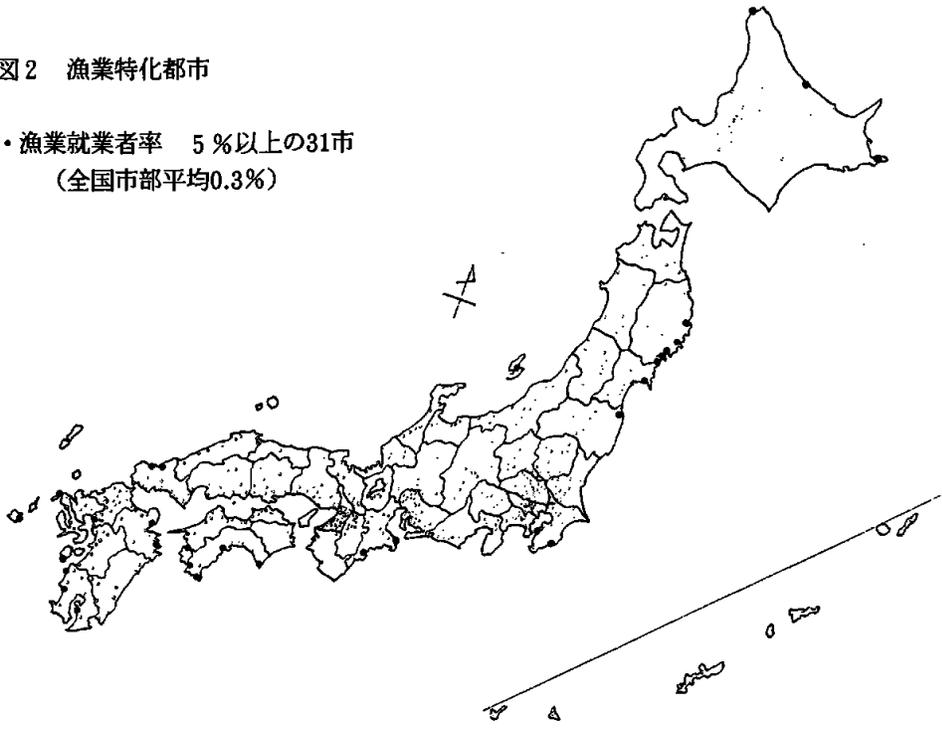


図3 建設業特化都市

- ・建設業就業者率 12%以上の68市
(全国市部平均9.2%)

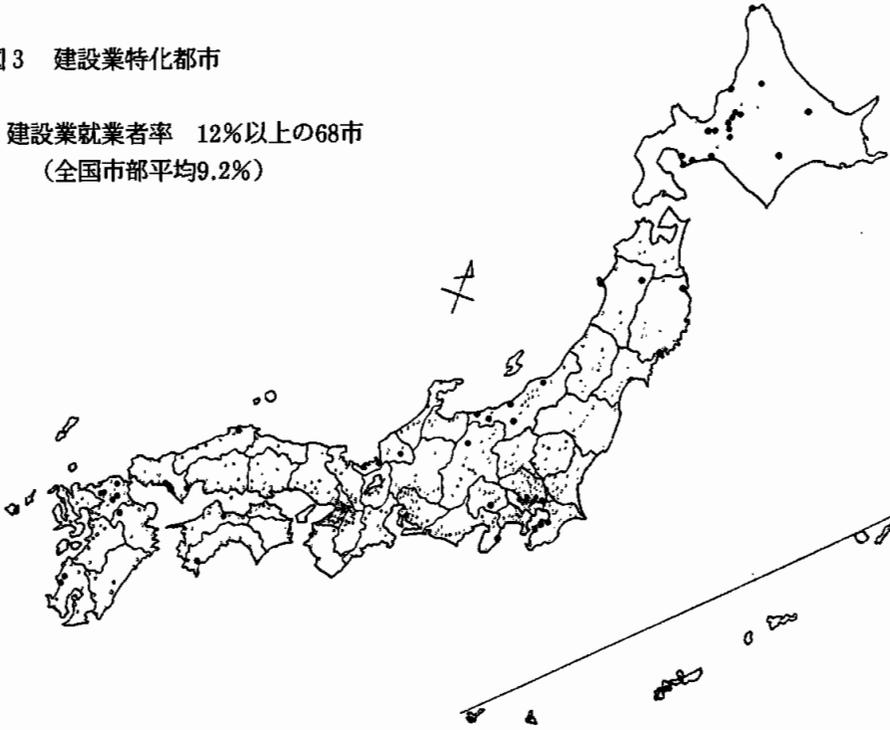


図4 製造業特化都市

- ・製造業就業者率 31%以上の182市
(全国市部平均23.4%)

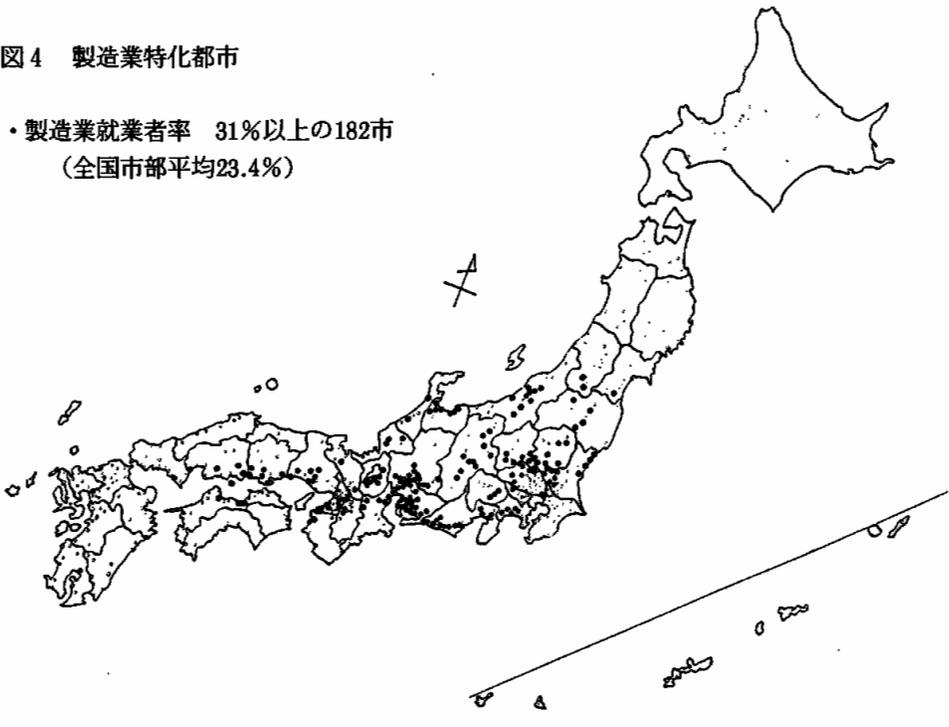


図5 運輸・通信業特化都市

- ・運輸・通信業就業者率 7.5%以上の63市
(全国市部平均6.2%)

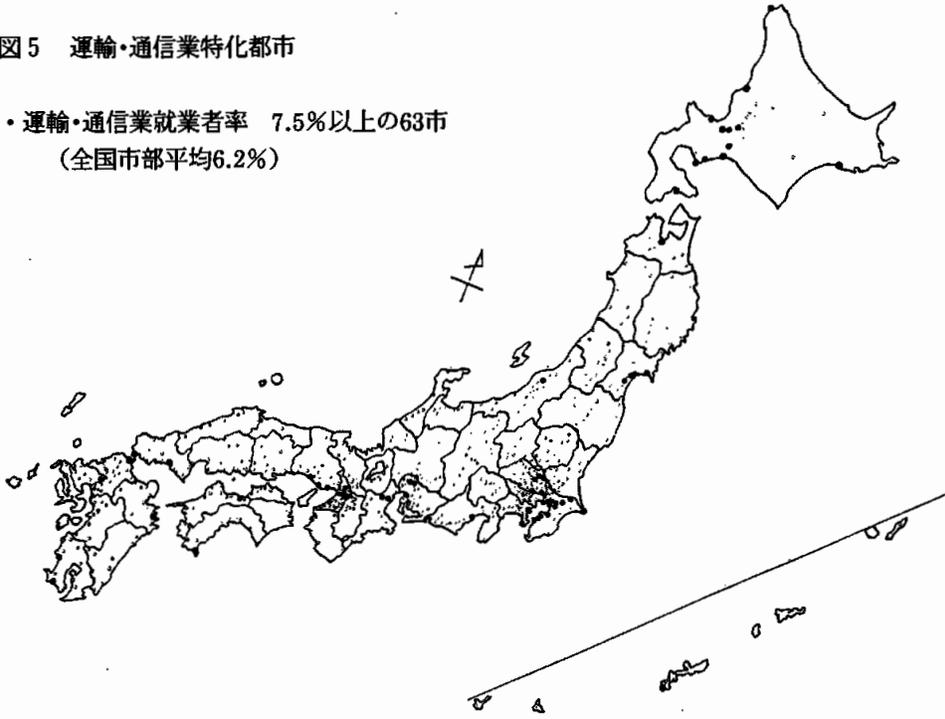


図6 卸売・小売業、飲食店特化都市

- ・卸売・小売業、飲食店就業者率 24.5%以上の122市
(全国市部平均24.3%)

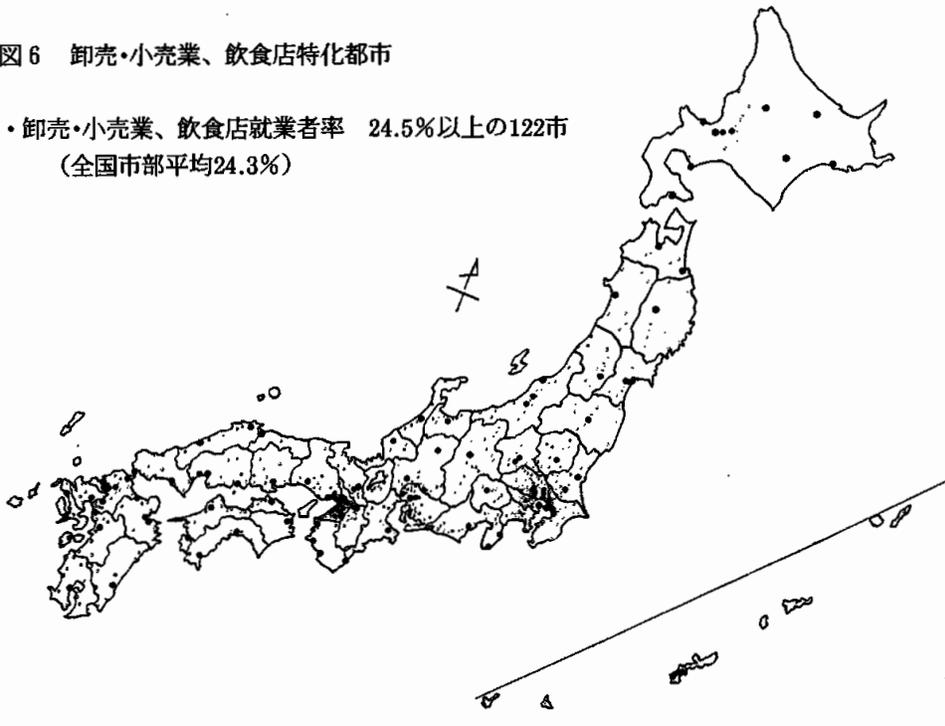


図7 金融・保険業特化都市

- ・金融・保険業就業者率 5%以上の46市
(全国市部平均3.6%)

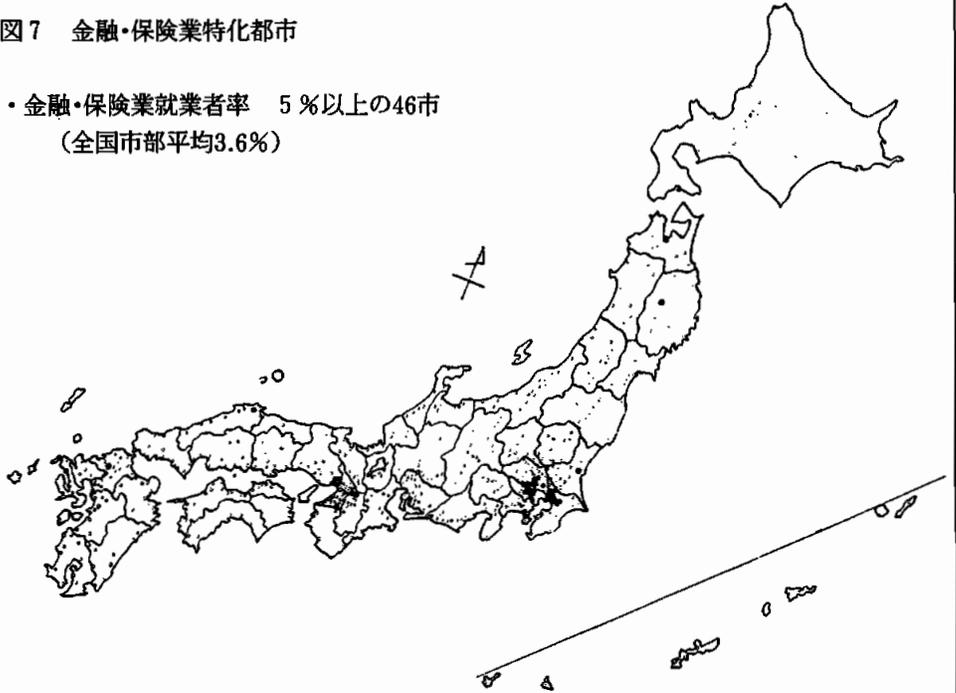


図8 不動産業特化都市

- ・不動産業就業者率 2%以上の30市
(全国市部平均1.3%)

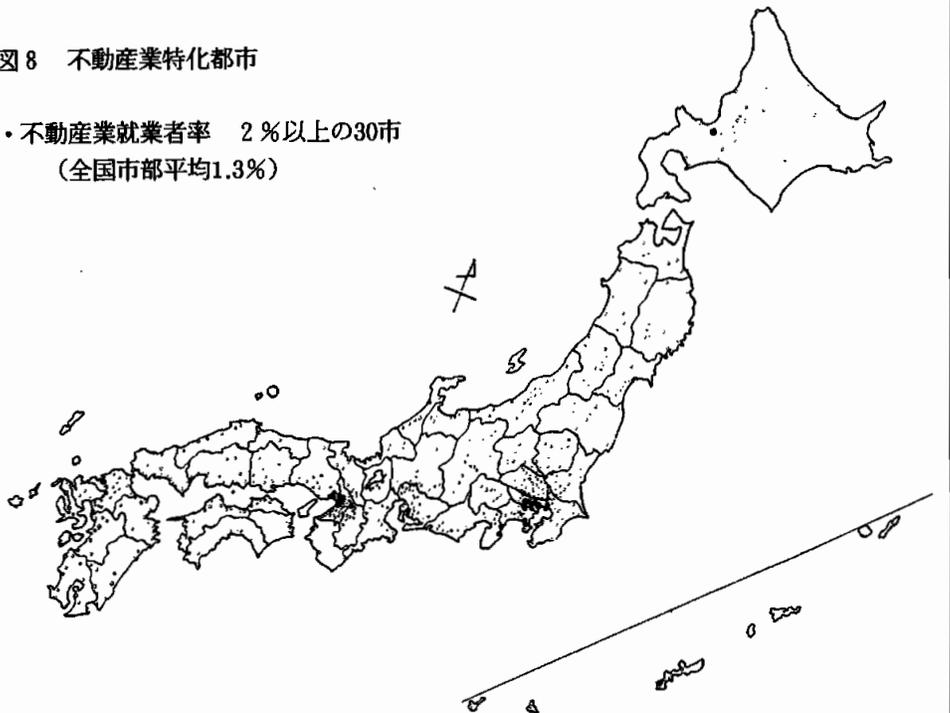


図9 サービス業特化都市

- ・サービス業就業者率 25.5%以上の123市
(全国市部平均23.6%)

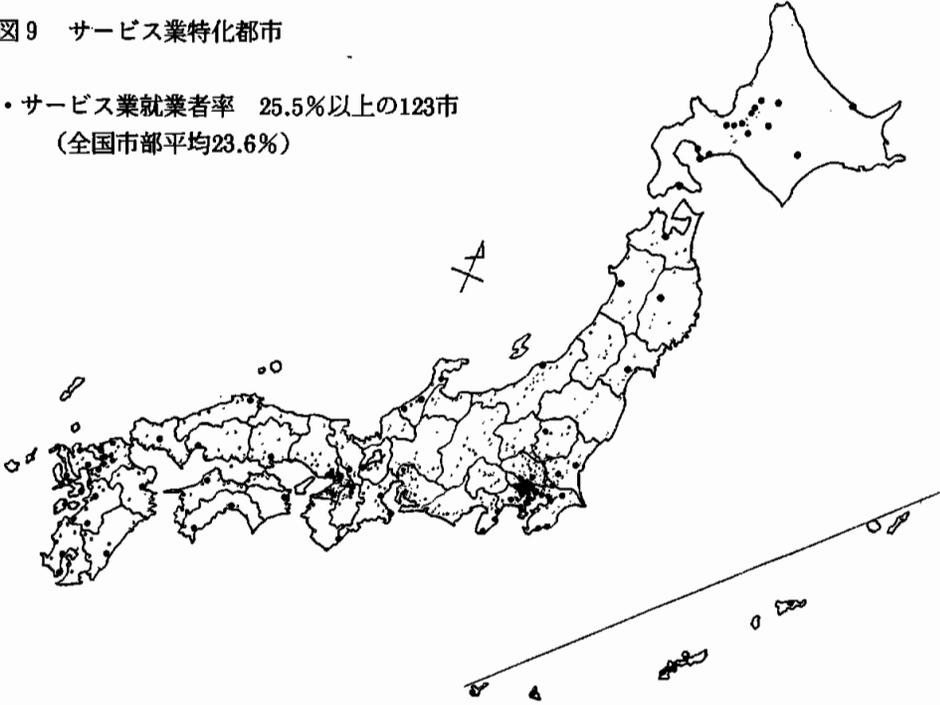


図10 公務（他に分類されないもの）特化都市

- ・公務（他に分類されないもの）就業者率 5%以上の76市
(全国市部平均3.3%)



図11 標準都市

- ・特化産業および特化度のとくに低い産業
（鉱業を除く第2次産業および第3次産業のうち）の何れも有しない50市

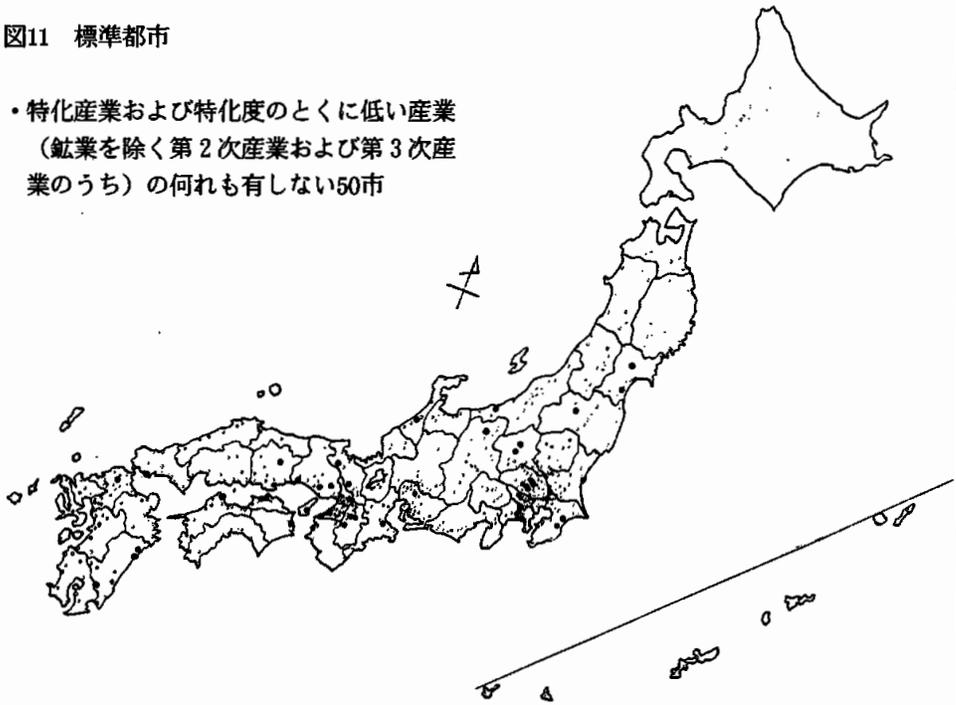
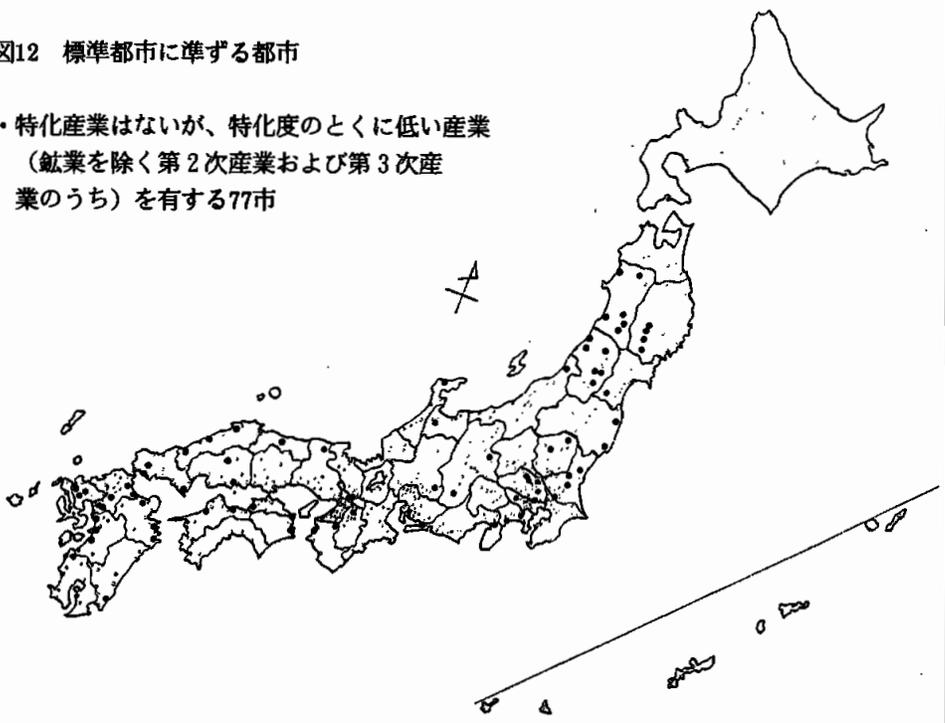


図12 標準都市に準ずる都市

- ・特化産業はないが、特化度のとくに低い産業
（鉱業を除く第2次産業および第3次産業のうち）を有する77市



Ⅶ. おわりに

本文で使用した都市機能の特化とは、特定の都市に常住するある産業に就業する人口の就業総数に占める割合が全国の市部の当該平均値に比較して相当に高率であるという意味であり、決してその産業に就業する人口そのものが当該市の中で他の産業より卓越するという事ではないので、この点誤解のないよう念のため書き加えておきたい。そうでなければ、全国の殆どの都市が工業に、または商業に、サービス業に特化するということになってしまい、都市の多彩な機能的特性を見出すことは不可能となってしまうからである。

わが国の市部においても郡部においても、就業者の数は人口の増加率を上まわって伸びつづけて来た。とくに近年はその傾向が強まっている。そして、第1次産業就業者は激しい減少を続けて7%迄下っている。第2次産業は実数こそ伸びたが、率は33%と横這いである。ひとり第3次産業のみシェアを伸ばし、59%（市部では63%）に達した。この傾向は当分続くことであろう。

第3次産業のなかでも、今後共伸びが期待できるのは消費機能の代表であるサービス業のみであろうが、それとても不況下ではかげりをみせることになるろう。

機能類型区分の手法として、今回は特化率のみを前面に出したのであるが、これを量に加味したら、どんな結果となったであろうか。また、国内での地理的位置（中央、中間、縁辺という）と特化機能の数、種別などに大きな関連性があることが判った。全国的な圏域構造は、中核（東京、大阪）から外側へ向って都市機能の中核→分化→複合の型式を示している。それは、中央に近い地域の都市に比べ、僻遠地域の都市はより機能的複合性を増すということである。

なお、都市別に特化機能の年次変化を調べるという研究課題もあるが、年次によって特化基準の限界値をどう調整するか難しい問題でもあるし、試料が盛大でもあって、今回は手を加えなかった。間口が広くなり過ぎて解析が十分でなく、問題提起に留まった点を反省する次第である。

おもな資料・参考文献

総務庁統計局編：国勢調査報告書

昭和55年、昭和60年、平成2年分

鹿島出版会刊：都市問題事典Ⅱ章 昭. 40

藤岡謙二郎「都市の類型」

石水照雄「階層・地位的分類」

小古間隆蔵「都市の機能的分類」

東京市政調査会刊：都市地理学原理 昭. 54

木内信蔵「都市分類の必要性について」

大明堂刊：桑島勝雄「都市機能地域」 昭. 59

古今書院刊：服部銈二郎「都市 — 人類最高の傑作 — 」 平. 4

Summary

We have now 664 cities in our country. They all are connected with higher ranks organically and systematically. There are various functional types of the cities in Japan. I determined distinguished functions in each cities with the ratio numbers of classified industrial workers.

I classified according to the 35 types, besides considered with the geographical distribution of classified industrial excell cities. In accordance with the results, I confirmed closed relevancy between city functions and each distributing regions.